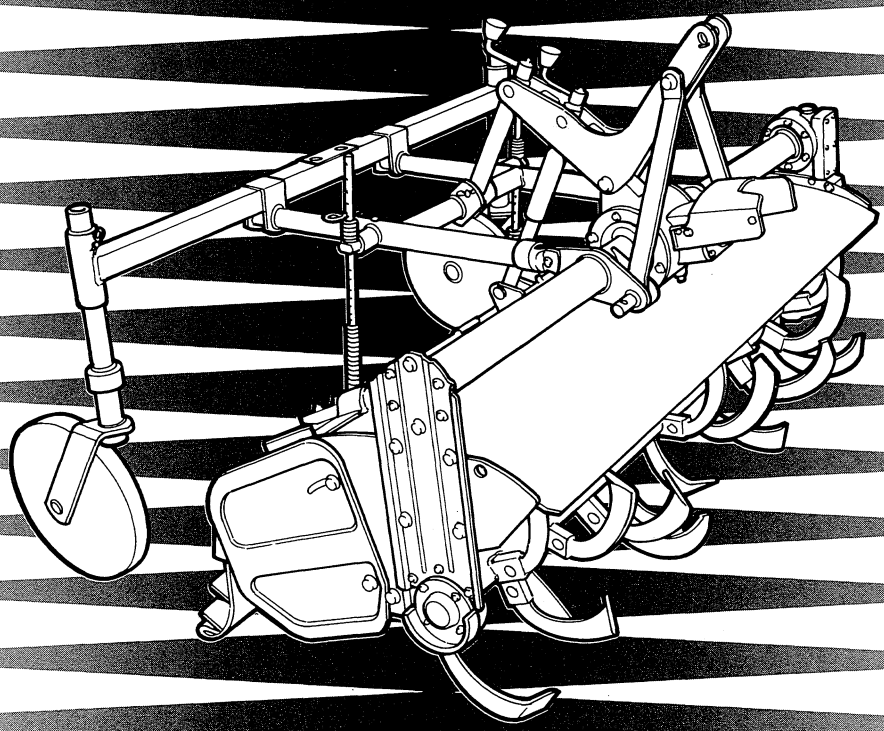
ホンダ サイドドライブロータリ

R1301S・R1401S

取扱説明書



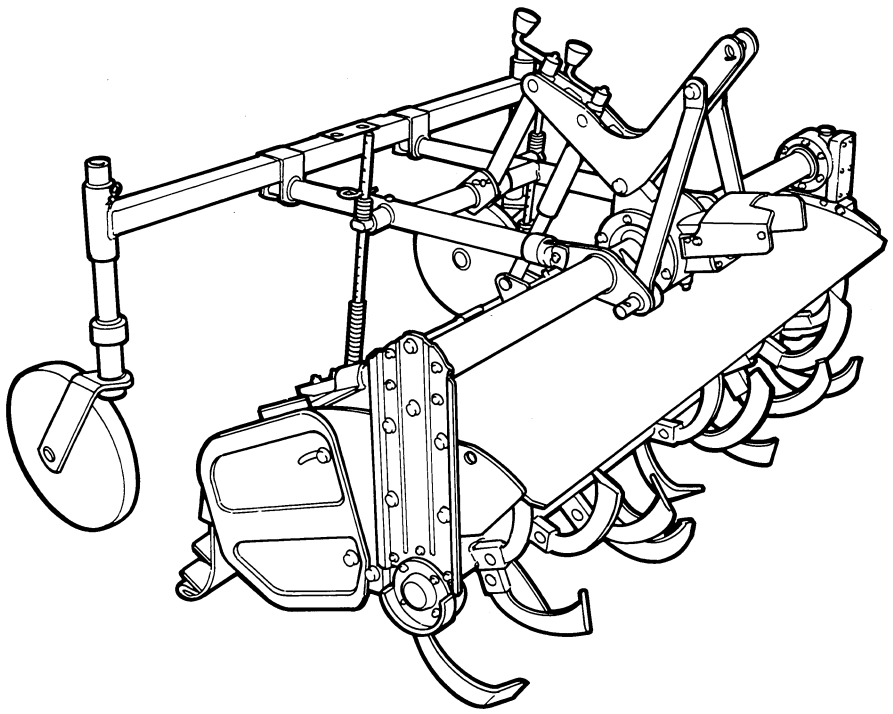
お買いあげありがとうございました。ご使用になる前に
必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**または整備手帳巻末のホンダ汎用営業所にお気軽にお申しつけください。

はじめに

このたびはホンダディーゼルトラクタ用サイドドライブロータリR1301S、R1401Sをお買上げいただきまして、まことにありがとうございました。
この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
ロータリを操作する前に、本書とディーゼルトラクタの取扱説明書をよくお読みいただき十分理解してからご使用ください。
取扱説明書はわからない事があったときに読むことができるように大切に保管し、日常の手引きとしてご活用ください。



安全に作業していただくため、さらに正しい取扱いをしていただくために取扱説明書で(注意)マークのついた項目がその都度記載されております。必ずお守りください。

更に、安全に関するポイントを記載した「安全のしおり」を別冊にて添付しておりますのでよくお読みいただいて、必ず守ってください。
この取扱説明書ではR1301S機械式ポジションコントロール仕様を中心に説明してあります。

なおこの取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

目　　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 3

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 5
1.尾輪調節ハンドル(機械式ポジションコントロール仕様) …… 5
2.カバー調節ハンドル(可変カバー) …… 6
3.リヤカバー …… 6
4.サイドカバー …… 6
5.尾輪ビーム …… 6

ロータリ取付け前の準備 …… 7

ロータリの取付け、取外し …… 10
取付けかた …… 10
取付け後の作動確認 …… 19
取外しかた …… 21

運転する前に点検しましょう …… 23
ロータリの固定のしかた …… 23
ロータリ爪、爪軸の点検 …… 24
各部の締付け点検 …… 24
耕深センサカプラ、ハーネス点検(HiS仕様のみ) …… 25

耕うん作業 …… 26
圃場での注意 …… 26
各部の取扱いと調整のしかた …… 27
1.下降速度調整ノブ …… 27
2.カバー調節ハンドル(可変カバー) …… 28
3.リヤカバー …… 29
4.サイドカバー …… 30
5.尾輪 …… 31
6.ロータリ爪 …… 32
耕うん順序 …… 35
耕うん方法 …… 36
HiS(耕深制御使用時のみ)使用時の耕うん方法 …… 40

やさしい点検・整備 …… 41
定期点検表 …… 41
チェーンケースオイルの点検、交換 …… 42
ベベルギヤケースオイルの点検、交換 …… 44
各部の給油およびグリス塗布 …… 46
各部の清掃 …… 47

故障のときは …… 48

主要諸元 …… 49

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

ロータリの取り扱いは正しく。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的なロータリ作業を行うため次のことを必ずお守りください。
別冊の「安全のしおり」を必ずお読みください。

●安全のために知っておきたいこと

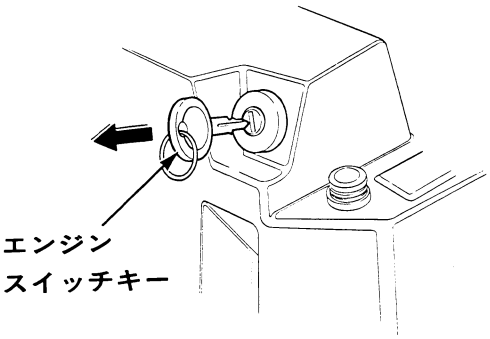
☆運転を始める前に本機の取扱説明書を読み、正しい取り扱い方法を十分御理解のうえ自分で操作してください。

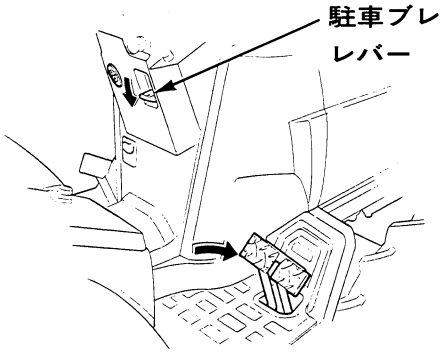
☆人を乗せたり、近寄らせないでください。

☆日常点検、整備を忘れずに行ってください。

☆作業を行う前に圃場の石、空かん等の障害物を除去してください。

☆各部の点検整備を行うときは、エンジンを止め、キーを外して、駐車ブレーキをロックしてから行ってください。





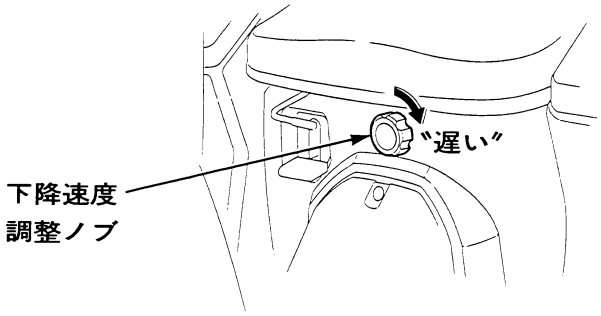
☆後退しながら耕うんは、絶対にしないでください。ロータリを破損する原因となります。

●耕うん爪の点検、清掃、交換のときは

☆点検は平坦な場所で行ってください。

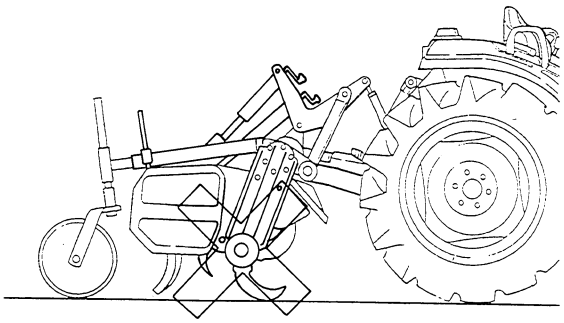
☆エンジンを止めキーを外して、駐車ブレーキをロックしてから行ってください。

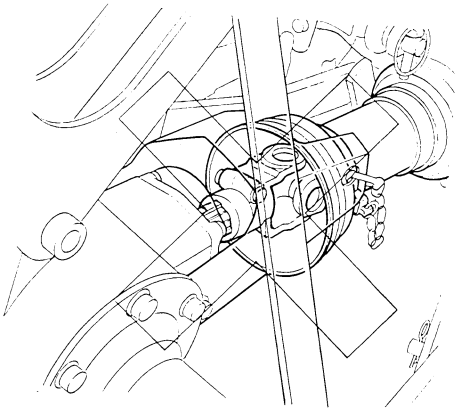
☆シート下の下降速度調整ノブを〝遅い〟(右方向)に止まるまで回して油圧をロックしロータリを固定してください。



●作業中の注意

☆回転部分には絶対に手や足を近づけないでください。





☆ロータリの上に人や物を乗せないでください。又運転中に人や動物を絶対に近づけないでください。

☆ロータリの昇降、後進、および旋回のときには周囲の安全に十分注意してください。

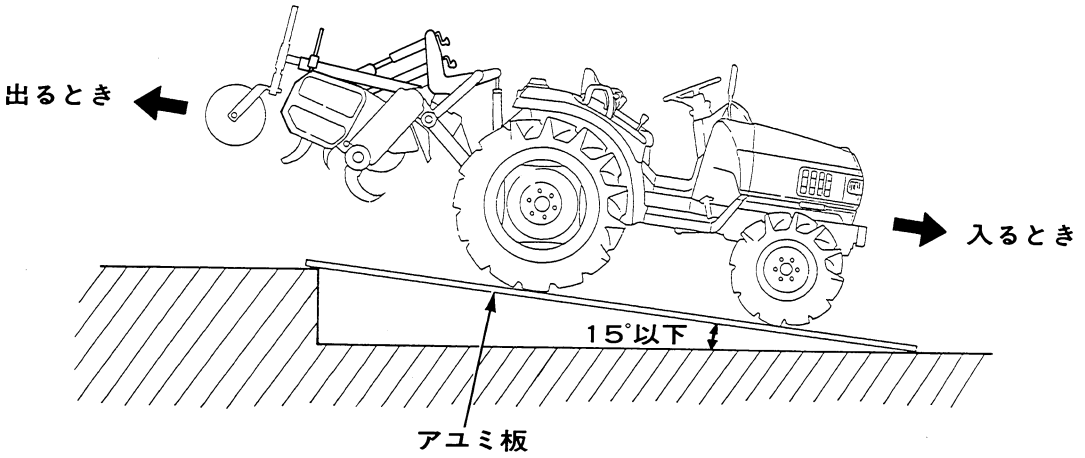
☆信地旋回(片ブレーキ旋回)をする時は必ずロータリを上げてください。

☆段差の大きい作業場への出入りは4WD(4駆)にして必ず丈夫なアユミ板を使用して低速で行ってください。

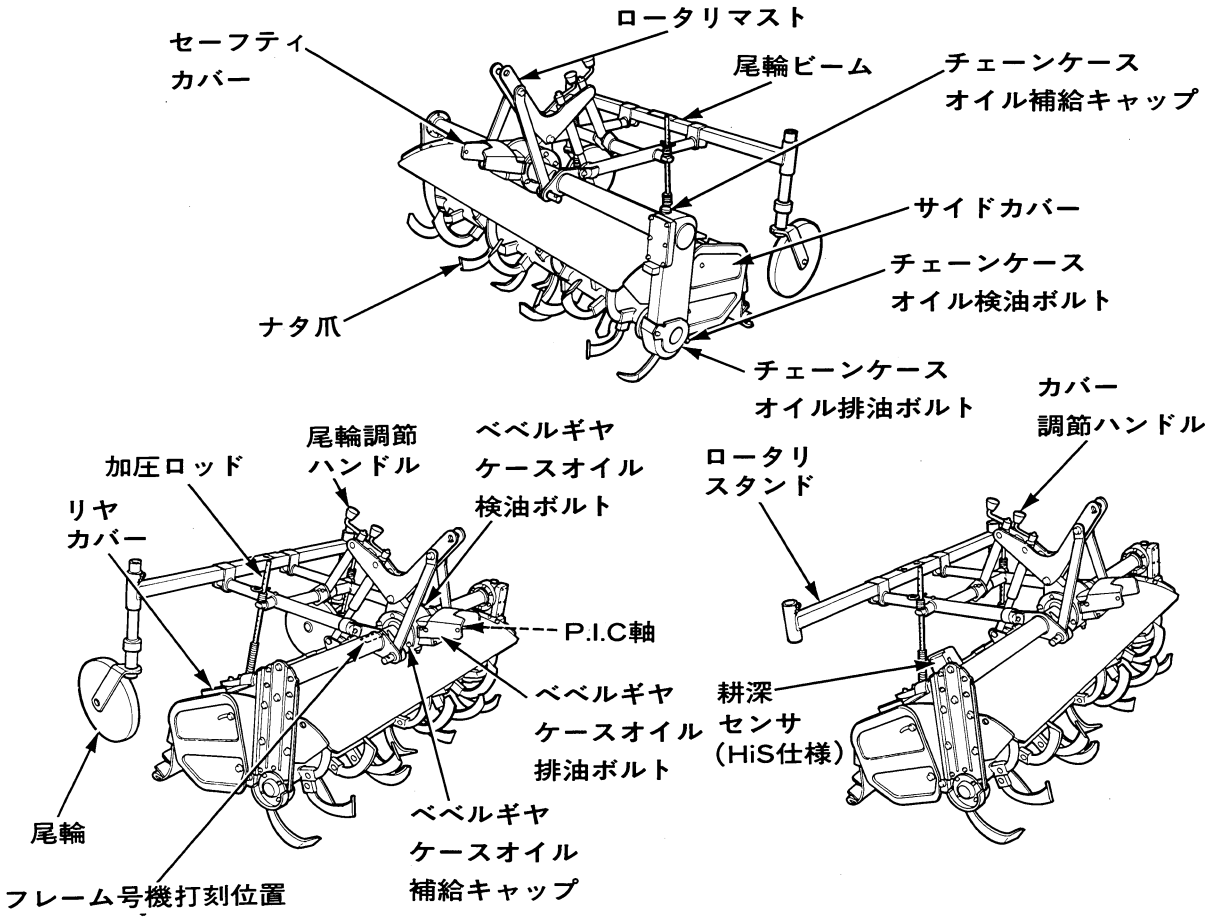
☆作業に合った爪軸回転と車速を選んでください。

万一、硬い圃場等で作業中に本機が飛出した場合は、すぐにクラッチを切り、ブレーキを踏んでより低い車速にしてください。

・耕うん作業は4WD(4駆)をご使用ください。

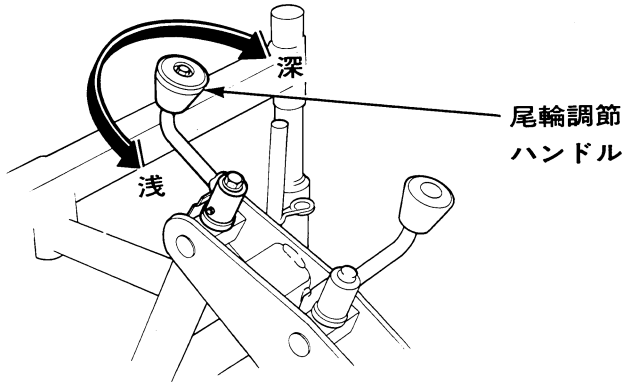


各部の名称と取り扱いをおぼえましょう



1. 尾輪調節ハンドル(機械式ポジションコントロール仕様)

尾輪調節ハンドルを回わすことにより耕深を調整できます。

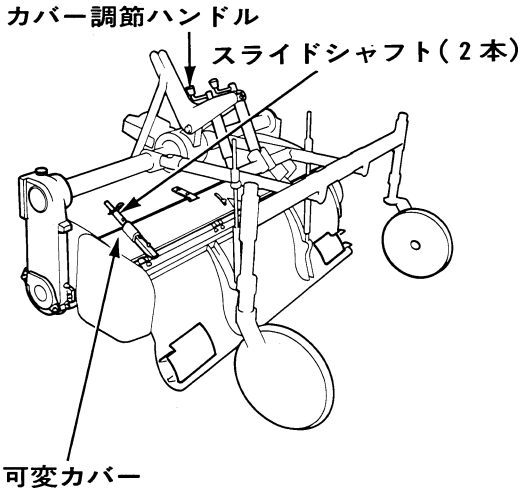


注意

- 耕深調整は、本機を停止し、P.T.O軸変速レバーを〝N〟の位置にして行ってください。
- ハンドルを操作する時は、手がカバー調節ハンドルに当たらないよう位置をあらかじめ調節してください。

2．カバー調節ハンドル(可変カバー)

調節ハンドルを回し、作業に応じて可変カバーの角度を変える事ができます。代掻作業もハンドルを回す事により、可変カバーがスライドして、そのまま作業する事ができます。

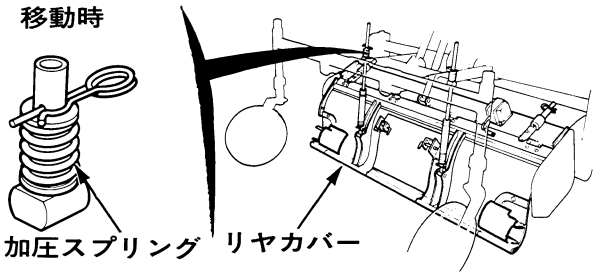


3．リヤカバー

後部への土や、石はね防止と整地のために付いています。

(HiS仕様は耕深制御時に使用します。)

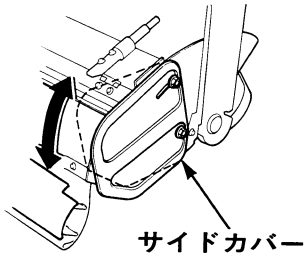
> 注意　移動走行時は、リヤカバーの振れをおさえるためロックピンと、加圧スプリングのスキ間がないように調節してください。



4．サイドカバー

横方向への土の逃げを防止します。

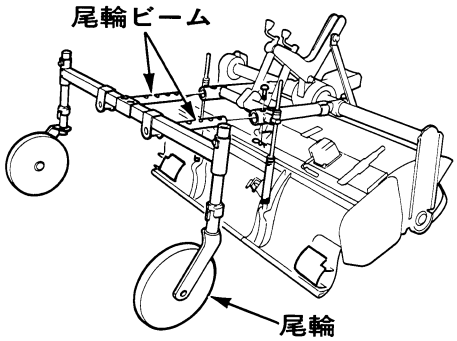
作業する圃場および深さに応じてカバーを上下させてください。



5．尾輪ビーム

作業に応じて尾輪の位置を調整します。前後７段階に調整することができます。

> 注意　尾輪の位置を調整するときは、本機にロータリを取付けた状態で油圧リフトレバーでロータリを上昇させ下降速度調整ノブを右にいっぱい回し油圧をロックして行ってください。



ロータリ取付け前の準備

●ロータリスタンド

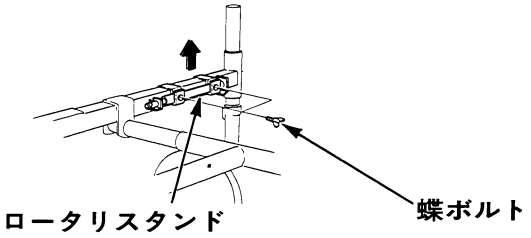
(尾輪のない仕様にロータリスタンドが設定されています。)

ロータリスタンドは取付け取外しの時に使用します。

次の手順でロータリスタンドをセットしてください。

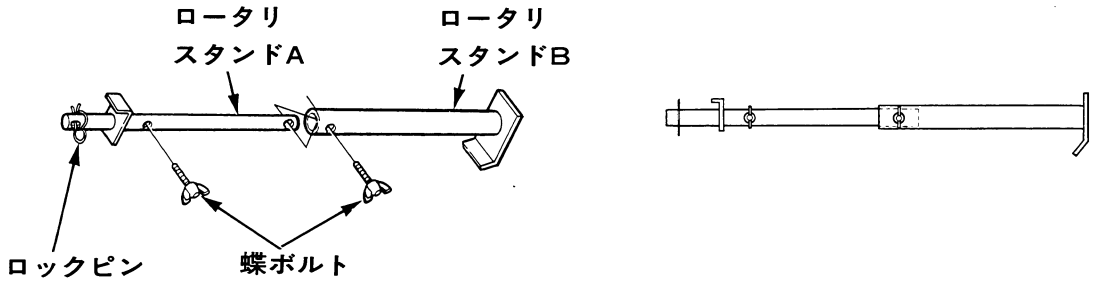
1)尾輪ビームを引き出して後方から4番目の穴にセットします。

2)蝶ボルト2本を外してロータリスタンドを矢印の方向へ持ち上げて外してください。



3)ロータリスタンドAとロータリスタンドBの穴を合わせ、2)で外した蝶ボルト2本を取付けます。

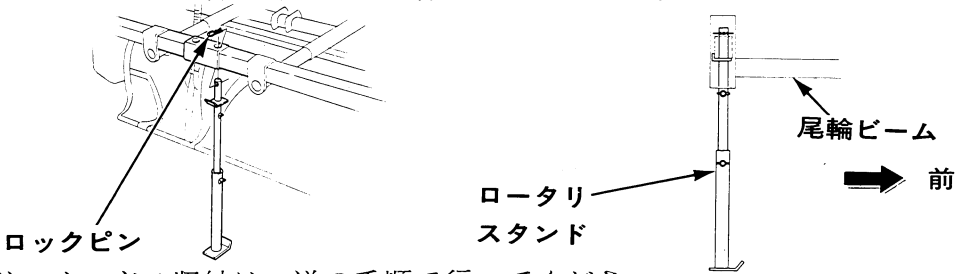
A、Bのロータリスタンドの取付け方向は図の様にしてください。



4)ロータリスタンドを尾輪ビームの穴に通し(穴は左右どちらでも可)、ロックピンを取付けます。

尾輪調節ハンドルを回してロータリスタンドが入る高さまで尾輪ビームを上げてください。

ロータリスタンドの取付け方向は図の様にしてください。

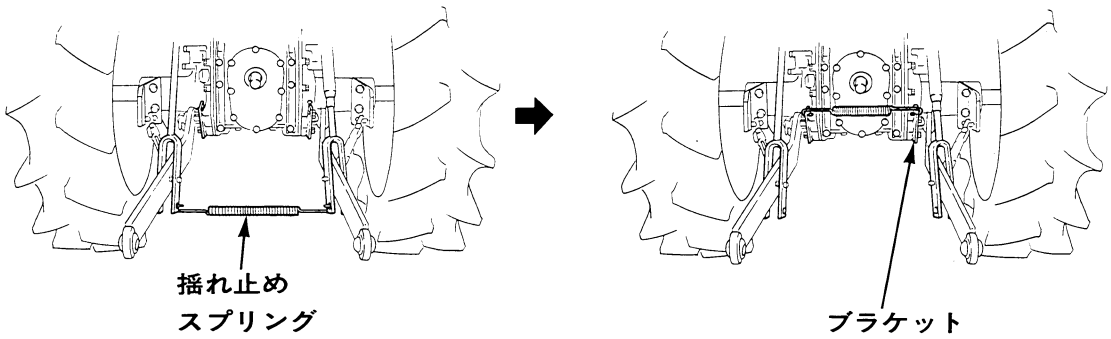


5)ロータリスタンドの収納は、逆の手順で行ってください。

ロータリスタンドを尾輪ビームに取付けるときは、蝶ボルトがゆるまないように、しっかり締め付けてください。

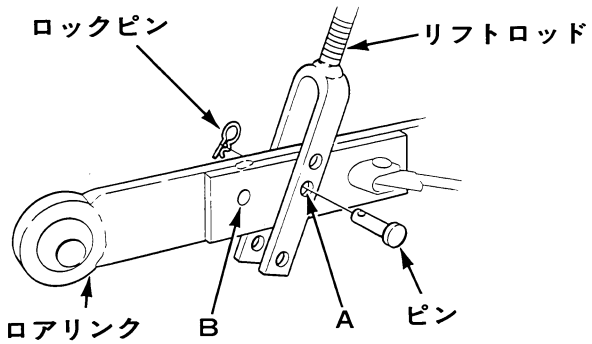
●ロアリンク

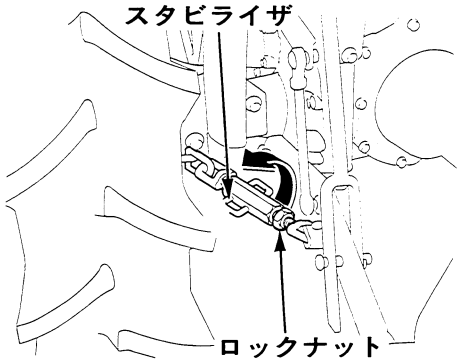
1.ロアリンクの揺れ止めスプリングを外し、スプリングをロアリンクのブラケットに取付けます。



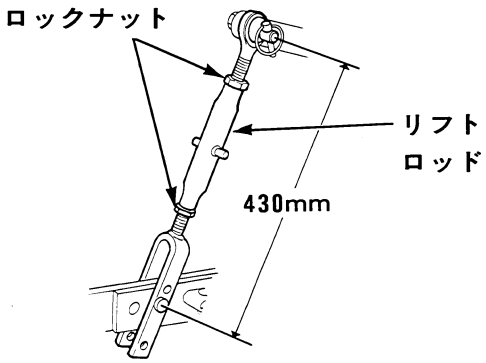
2.リフトロッドの中央の穴とロアリンクの前の穴を合わせ、ピンとロックピンで取付けます。ロックナットをゆるめスタビライザをゆるめます。

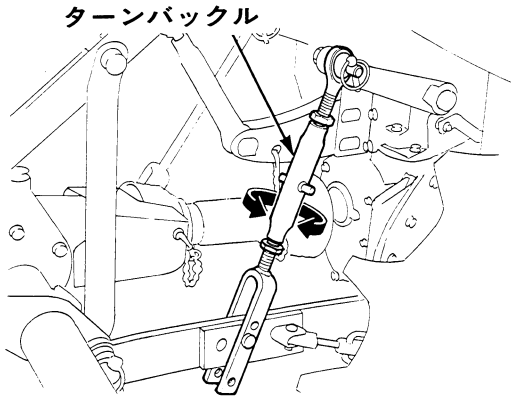
> 注意　施肥播種機使用時は、ロアリンク穴位置Bにしてください。





3.右側リフトロッドのロックナットを弛め、ターンバックルを回して右側リフトロッドの長さを430mmに調整します。調整後ロックナットを確実に締付けてください。
（機械式ポジションコントロール仕様のみ）

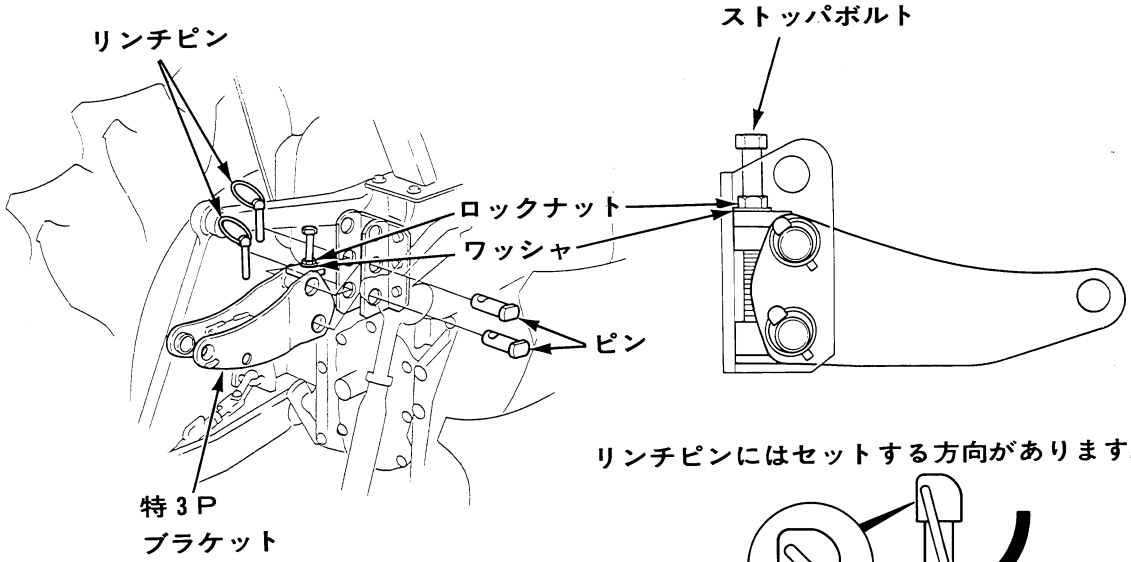




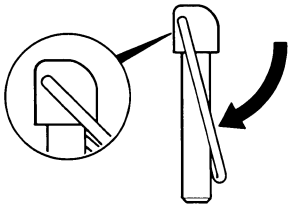
●特３Ｐブラケット

1.特３Ｐブラケットの上の穴をトラクタ側取付け部中央の穴に合わせピンとリンチピンで取付け、次に特３Ｐブラケットの下の穴を同様にピンとリンチピンで取付けます。

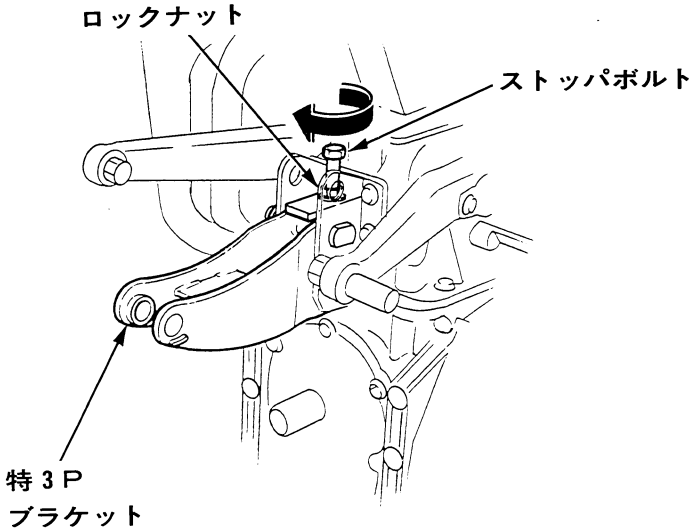
ピンが入りにくい場合は、ロックナット、ストッパボルトをゆるめて特３Ｐブラケットを上下に動かしながらピンを差しこんでください。



リンチピンにはセットする方向があります。



2.ストッパボルトを締付け、ロックナットを締めて、特３Ｐブラケットを固定してください。

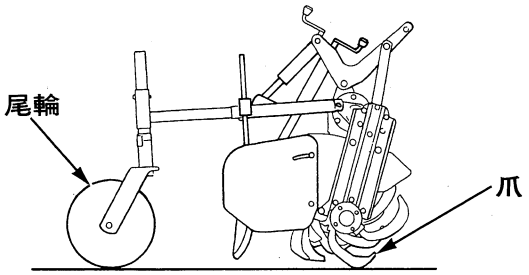


ロータリの取付け、取外し

取付け前にロータリが次の状態であることを確認してください。

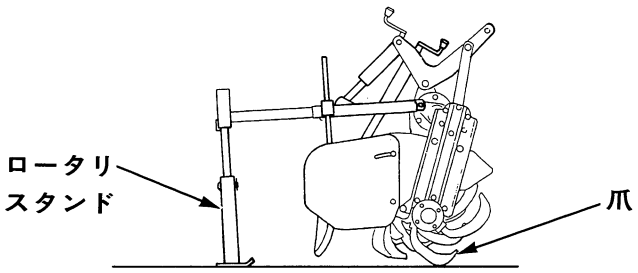
●尾輪つき仕様

尾輪と爪の両方が接地していること。



●尾輪のない仕様

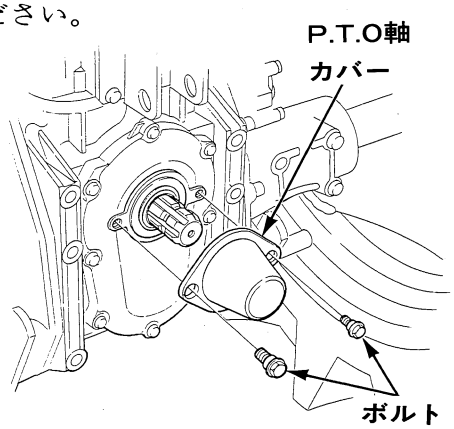
ロータリスタンドと爪の両方が接地していること。

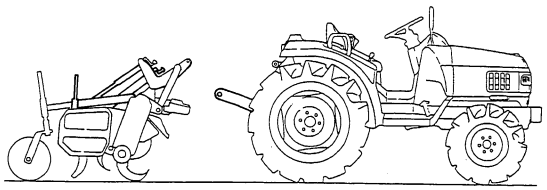


取付けかた

1．ロータリおよびトラクタを平坦な場所に置き、エンジンを停止してP.T.O軸カバーを取外してください。トラクタをロータリ取付け部近くまで後進させて、駐車ブレーキをかけてください。

P.T.O変速レバーが〝N〟の位置になっていることを確認した後エンジンを停止してください。

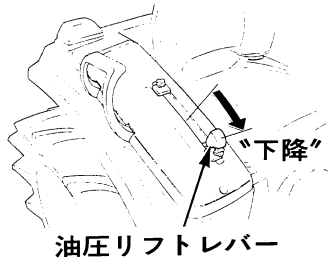


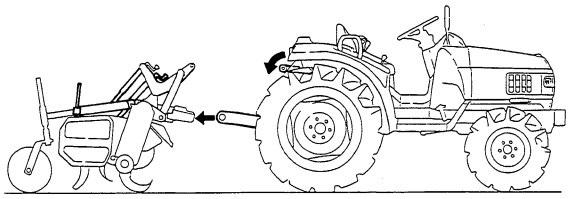


2．次の手順でロアリンクをロータリのロアリンクピンの高さまで下げてください。

●機械式ポジションコントロール仕様

1)油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロアリンクを下げてください。
(ロアリンクが下がらない場合は手で下げてください。また重い場合は下降速度調整ノブを〝速い〟の方向へ回してください。)



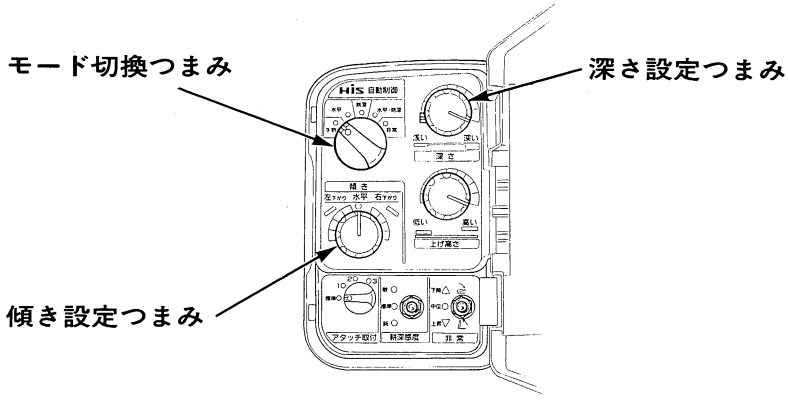


●HiS仕様

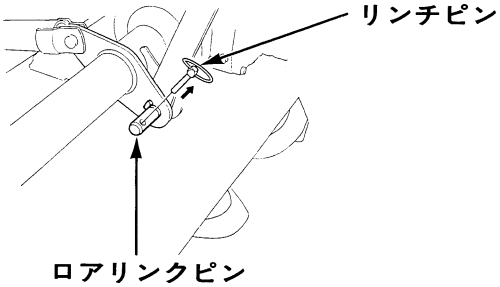
1)モード切換つまみを〝手動〟の位置にします。傾き設定つまみを〝水平〟の位置にします。深さ設定つまみを〝深い〟の位置にしてください。

2)エンジンを始動し油圧リフトレバーを〝下降〟の位置へ倒し、ロアリンクを下げてください。(ロアリンクが下がらない場合は手で下げてください。また重い場合は下降速度調整ノブを〝速い〟の方向へ回してください。)

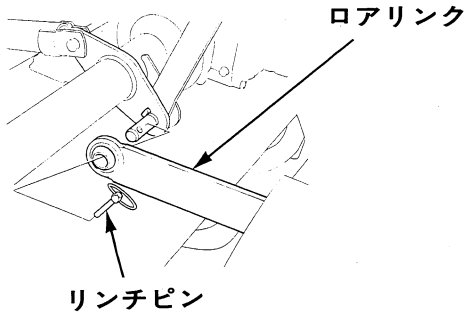
3)エンジンを停止し、キーを抜いてください。

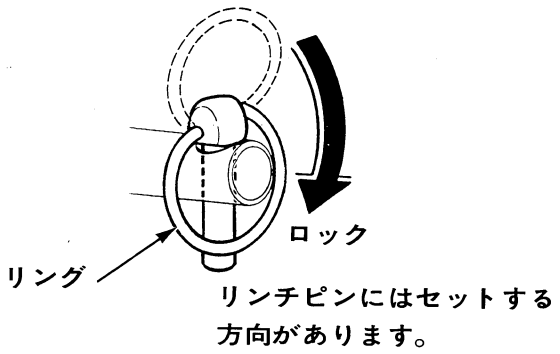


3．ロータリのロアリンクピンに取付けられているリンチピンを取外します。



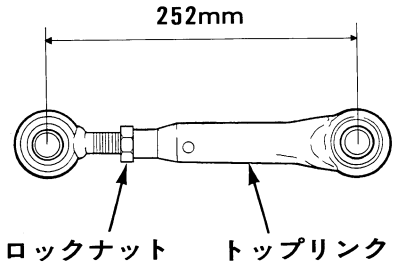
4．ロータリをトラクタ側へ移動させて、ロアリンクピンをロアリンクの穴に通しリンチピンのリングを確実にロックしてください。(左側のロアリンクを先に取付けてください。)

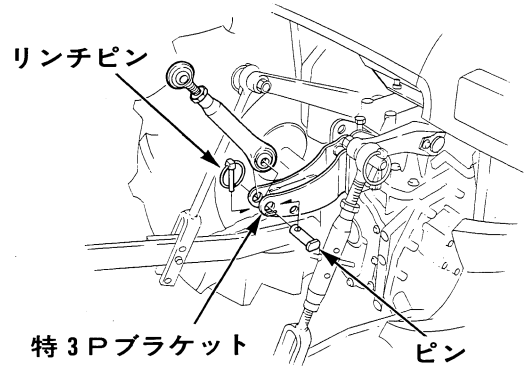




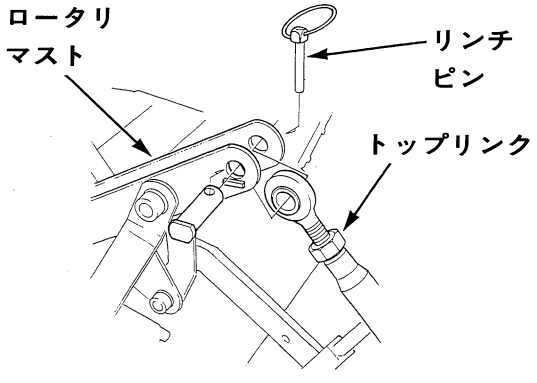
5．トップリンクの長さを図のように252mmに合わせ、ロックナットを確実に締付けてください。

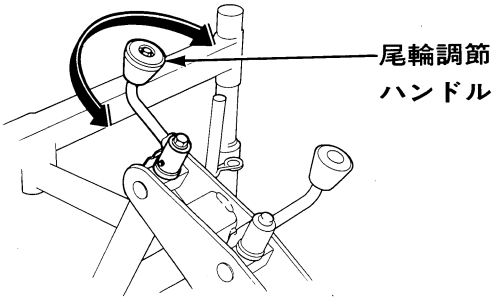
トップリンクを図の方向にして、特３Ｐブラケットの穴に合わせてピンとリンチピンで取付けます。リンチピンのリングは確実にロックしてください。





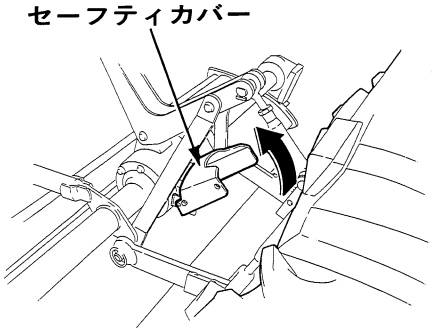
6．トップリンクとロータリマストの穴にピンを通しリンチピンを取付けリングをロックしてください。穴が合わない場合は、尾輪調節ハンドルを回して穴位置を合わせてください。

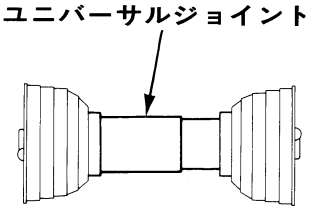


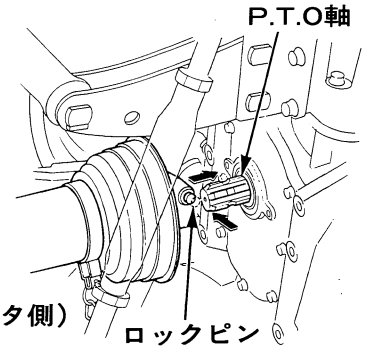


7．次の手順でユニバーサルジョイントを取付けます。

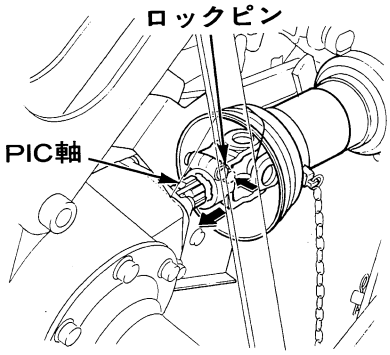
1)セーフティカバーを上げ、ユニバーサルジョイントのオス側ロックピンを押さえながらトラクタのP.T.O軸の根元まで差し込みます。

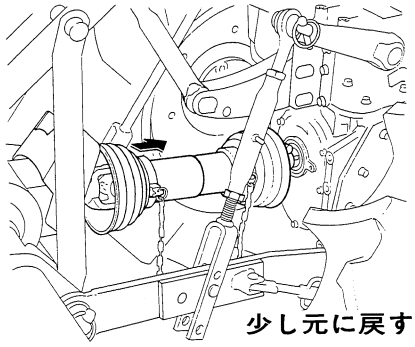






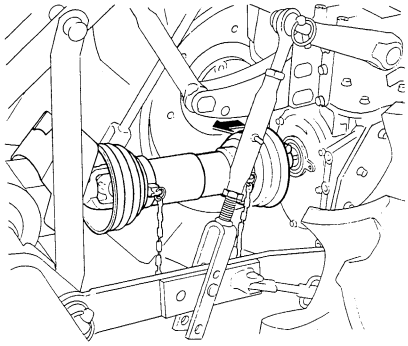
2)ユニバーサルジョイントのメス側ロックピンを押さえながらロータリのP.I.C軸の根元まで差し込みロックピンを離してからユニバーサルジョイントを少し元に戻します。ロックピンがP.I.C軸の溝にロックされていることを確認してください。

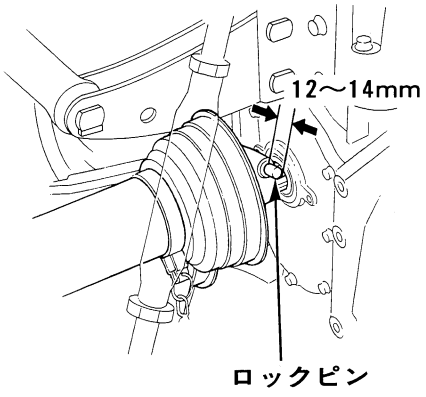




3)P.T.O軸側も、ユニバーサルジョイントを少し戻しロックピンがP.T.O軸の溝にセットされていることを確認してください。

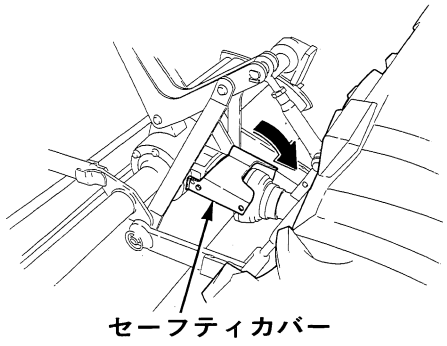
> 注意　ユニバーサルジョイントを差し込んだ後、確実にピンでロックされているか軽く手で引いて抜けないことを確認してください。ロックピンの先端が約12～14mm出ているのが正常です。

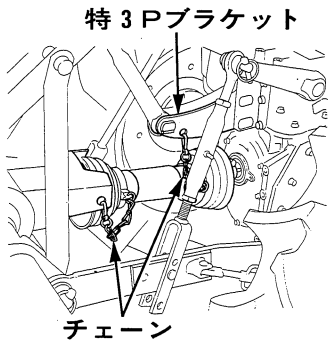




4) セーフティカバーを下ろし、チェーン２本を特３Pブラケットとセーフティカバーの穴に取付けます。

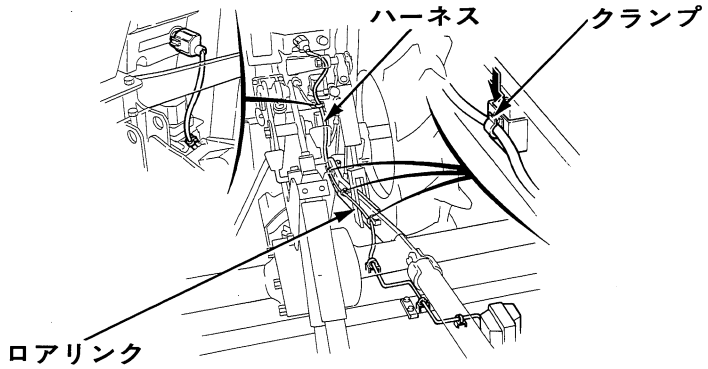
> **注意** チェンは必ず指定した場所へ取付けてください。他の部分に取付すると、チェンの破損等部品の損傷の原因になります。





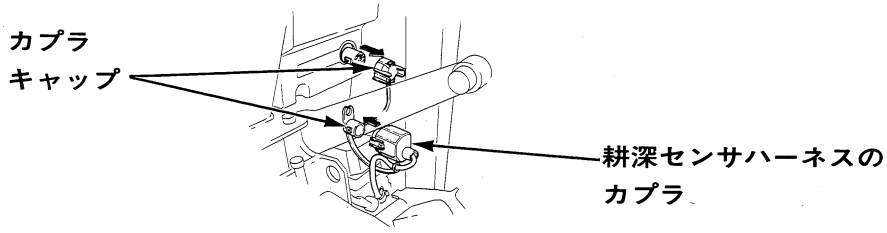
８．次の手順で耕深センサハーネスの接続をしてください。(HiS仕様のみ)

1) 耕深センサのハーネスをロアリンクのクランプ３ヶ所とトラクタ後部のクランプ１ヶ所に止めます。

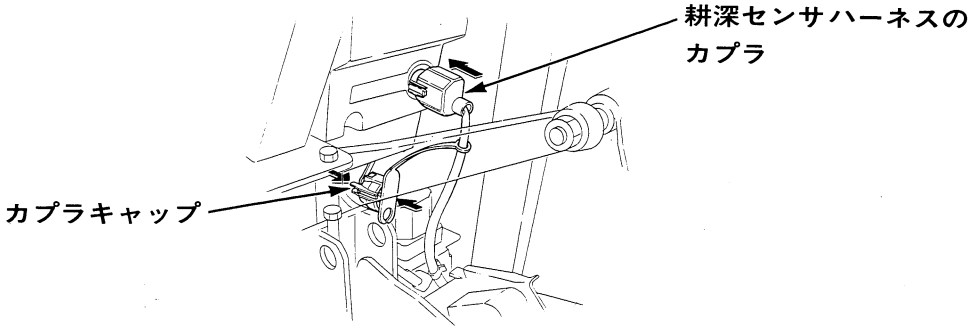


2) 耕深センサハーネス及びトラクタ後部のカプラキャップを取外します。カプラ内部が汚れている場合は乾いた布で汚れをふき取ってください。

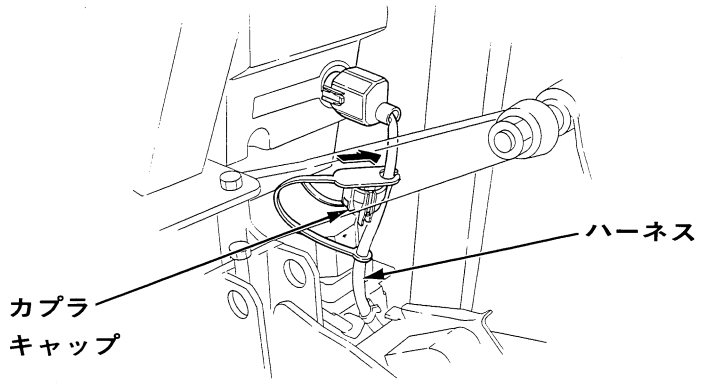
> **注意** カプラに防錆剤などを塗付しないでください。



3)耕深センサハーネスのカプラをトラクタ後部のカプラに確実に差し込みます。各カプラキャップを合わせて接続します。



4)一体のカプラキャップをセンサのハーネスに差し込みます。

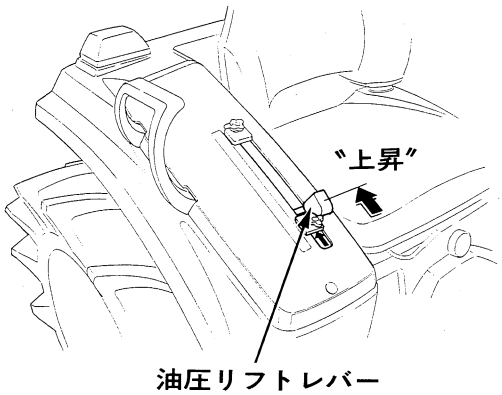


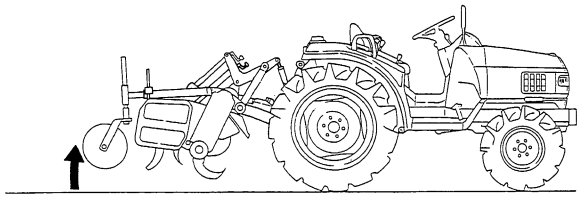
5)耕深センサハーネスの取外しは逆の手順で行ってください。

9．P.T.O変速レバー、主変速レバーが〝N〟の位置にあることを確認して、エンジンを始動します。

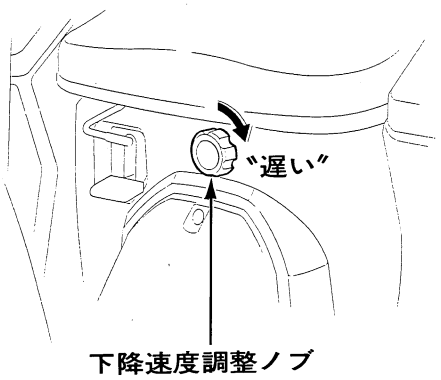
●機械式ポジションコントロール仕様

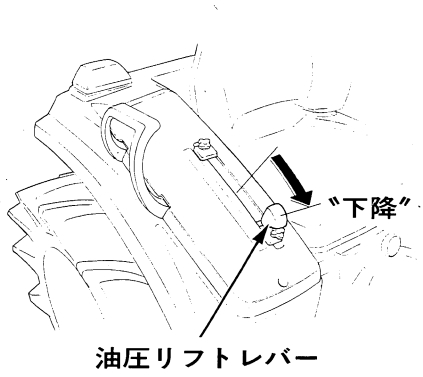
1)油圧リフトレバーを〝上昇〟側へ少し動かし、ロータリを地面から少し上昇させます。



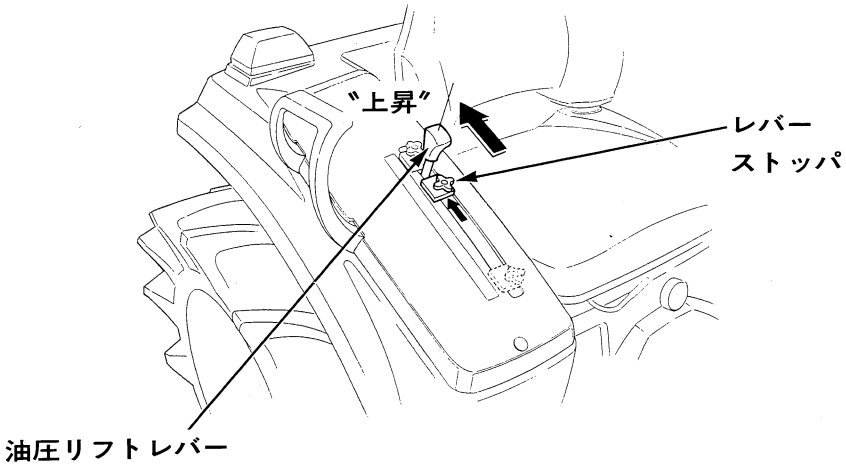


2)下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)に止まるまで回します。油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリが落下しないことを確認します。





3)エンジンを停止し、キーを外してください。油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にして油圧リフトレバーをレバーストッパで固定します。

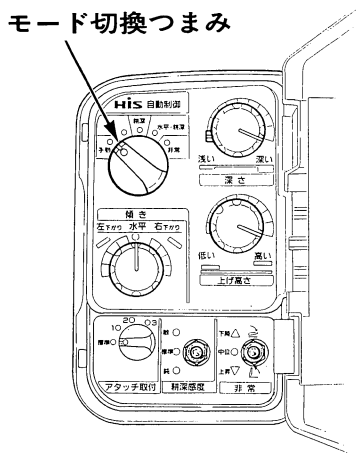


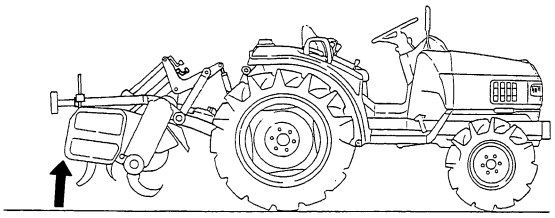
4)本機後方から見てロータリが水平になっていることを確認してください。ロータリが水平になっていない場合は油圧リフトレバーを〝下降〟にし、下降速度調整ノブを〝速い〟の方向へ少しづつ回してロータリを降ろしてください。

右側リフトロッドのターンバックルを回して調整します。調整後はロックナットを確実に締付けてください。(8頁参照)

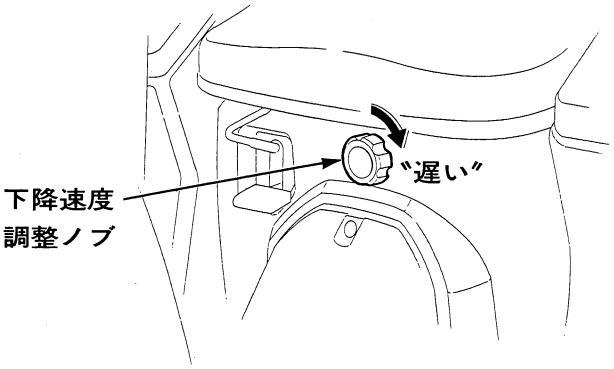
●HiS仕様

1) モード切換つまみを〝手動〟の位置にします。油圧リフトレバーを〝微調上昇〟の位置へ倒し、ロータリを地面から少し上昇させます。



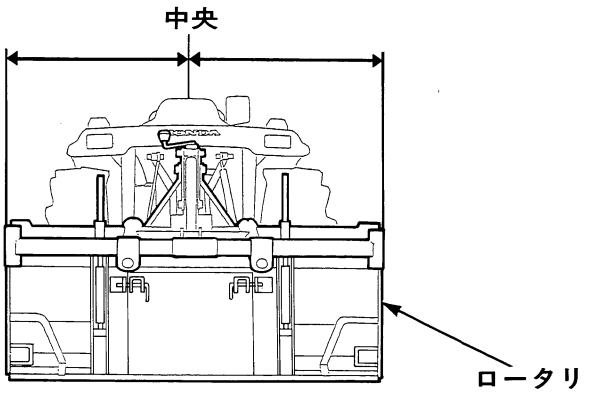


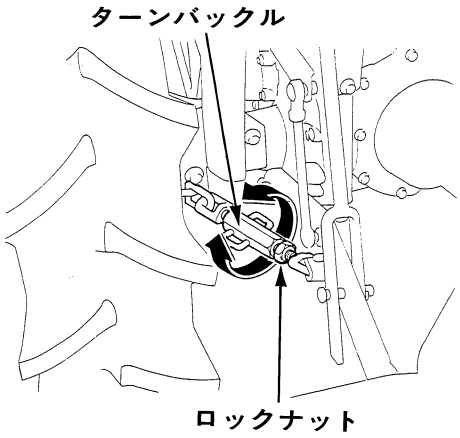
2) 下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)に止まるまで回します。
油圧リフトレバーを〝下降〟の位置へ倒し、ロータリが落下しないことを確認します。



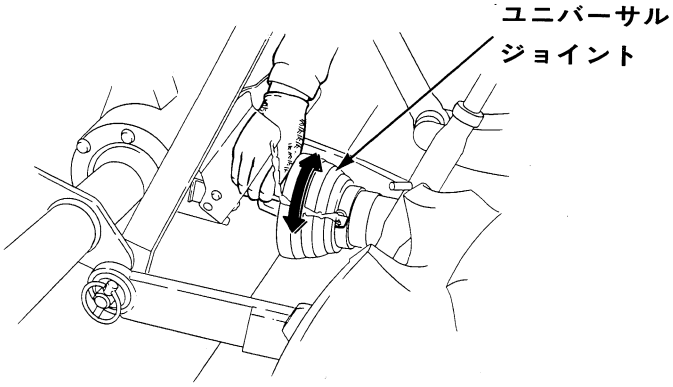
3) 本機後方から見てロータリが水平になっていることを確認してください。ロータリが水平になっていない場合は、傾き設定つまみで調整してください。

10. エンジンを停止し、キーを取外します。
ロータリ後方から見てロータリが車体中央に位置するよう、スタビライザを張ります。ロックナットを弛め、ターンバックルを手で回してスタビライザを張り、ロックナットをスパナ等で確実に締付けます。





11. ユニバーサルジョイントが、手で軽く回るか確認します。



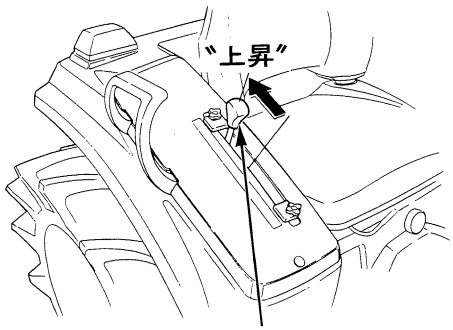
12.ロータリスタンドを収納します。（7頁参照）

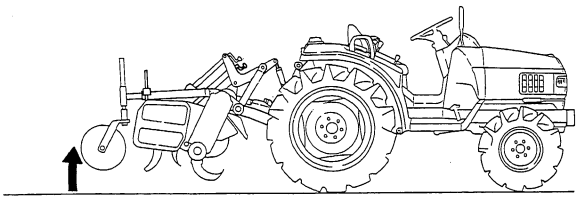
取付け後の作動確認

注意　作動確認を行うときは、周囲に人がいないことを必ず確認してから安全に注意して行ってください。

●機械式ポジションコントロール仕様

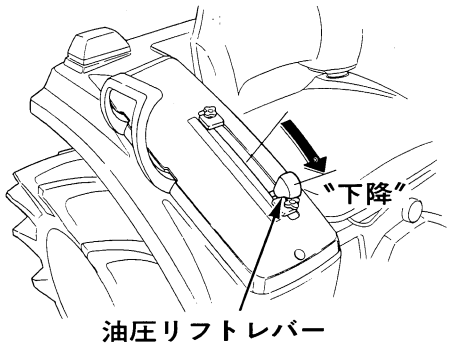
1．エンジンを始動します。油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にしてロータリが上昇することを確認します。下降速度調整ノブを〝遅い〟の方向にいっぱいに回します。





2．油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリが１～２秒で降りるように、下降速度調整ノブを徐々に〝速い〟の方向へ回して調整してください。

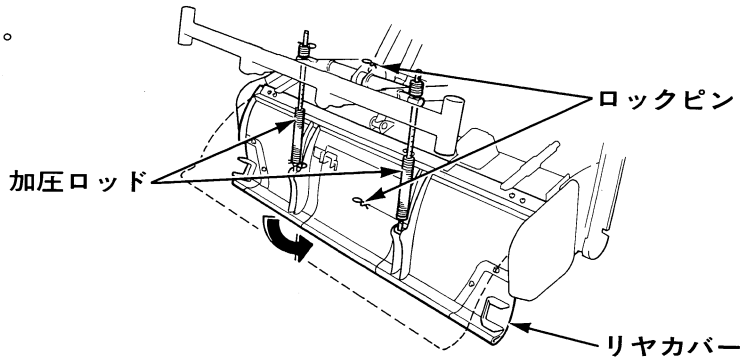
注意　・下降速度は作業機の重さ、外気温度等によって異なります。





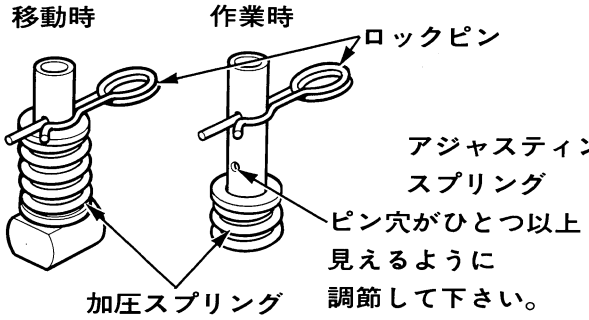
●HiS仕様

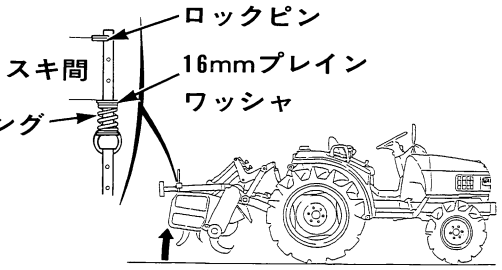
1．加圧ロッドのロックピン２本を加圧ロッドの最上端、最下端の穴に差し込みリヤカバーを下げます。



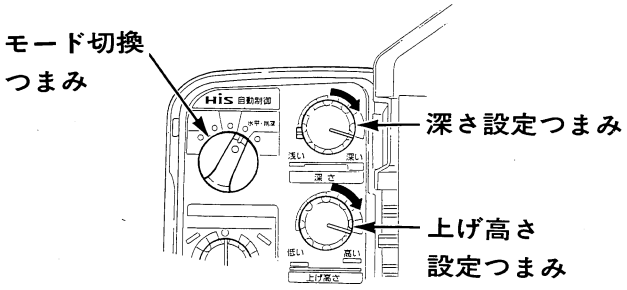
・ロータリを地面から少し上昇させます。カバー角度調整後、加圧ロッド上側のアジャスティングスプリング上部のワッシャとロックピンとのスキ間が必ずピン穴で１つ以上できるよう、尾輪調節ハンドルで調整します。

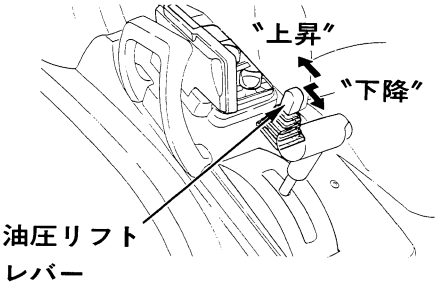
注意　スキ間がないと、HiSモードでロータリが下降しない場合があります。





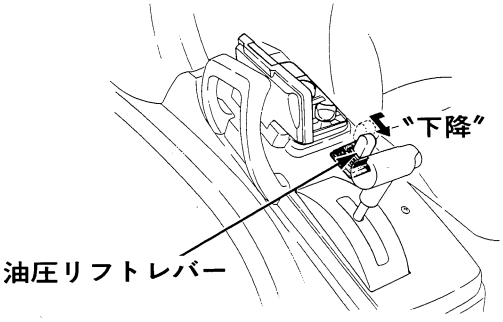
2．エンジンを始動し、モード切換つまみを〝水平・耕深〟の位置にします。
深さ設定つまみを〝深い〟に、上げ高さ設定つまみを〝高い〟の位置にします。
油圧リフトレバーを、〝上昇〟の位置にして、ロータリが上昇することを確認します。





3．下降速度調整ノブを〝遅い〟の方向にいっぱいに回します。油圧リフトレバーを〝下降〟の位置いっぱいに倒してロータリが１～２秒で降りるように、下降速度調整ノブを徐々に〝速い〟の方向へ回して調整してください。

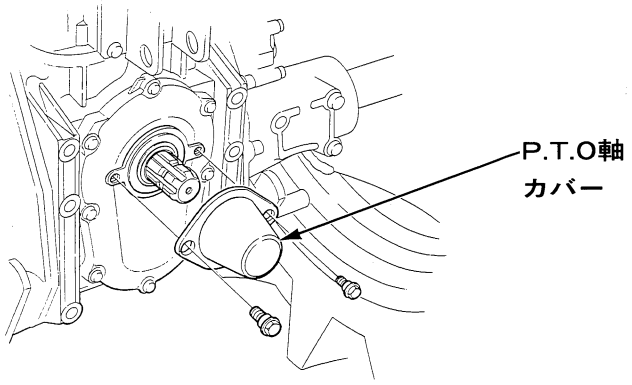
注意　下降速度は作業機の重さ、外気温度によって異なります。





取外しかた

注意　ロータリを取外したときは必ずユニバーサルジョイントを外してください。またP.T.O軸を使用しないときは必ずカバーを取付けてください。



取外しの準備

1．P.T.O軸変速レバーが〝N〟の位置にあることを確認します。

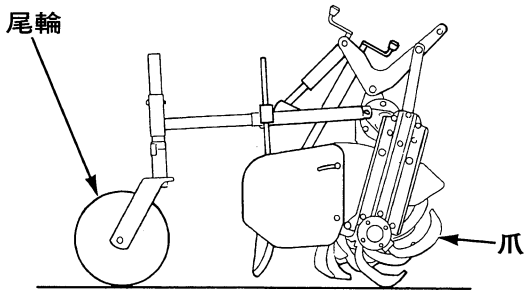
2．トラクタを平坦で硬い場所へ移動し、油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリを降ろします。

注意　ロータリを降ろす場合は安全及びロータリの破損を防ぐため、ゆっくり降ろしてください。

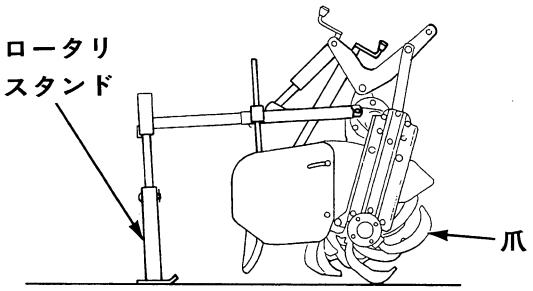
3．ロータリスタンドをセットしてください。(尾輪のない仕様)(7頁参照)

4．尾輪又はロータリスタンドを接地させます。(尾輪調節ハンドルで調節してください。)爪も同時に接地していることを確認してください。

尾輪つき仕様



尾輪のない仕様



5．取外しの準備ができたら〝取付けかた〞と逆の手順で取外してください。(耕深センサハーネスの取外しは14、15頁参照)

HiS仕様はカプラキャップを必ずカプラに確実に差し込んでください。カプラに土や水が付着すると接触不良の原因になります。乾いた布で汚れを拭き取ってください。

取外した耕深センサハーネスは、破損を防止するためロータリに固定してください。

6．取外し後、ロータリを安定させるために尾輪調節ハンドルを〝深い〞の方向へ3～5回転させてください。

運転する前に点検しましょう

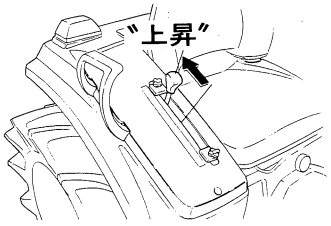
注意

・作業前の点検を行うときは、下降速度調整ノブを〝遅い〟(右回り)にいっぱいに回し油圧をロックしてロータリを固定してください。
・点検は平坦な場所で本機を水平にし、必ずエンジンを止め、キーを外してから行ってください。
・作業前の点検は故障を未然に防ぐため、またロータリを長持ちさせるためにも必ず行ってください。

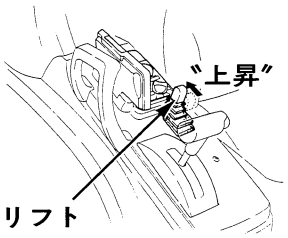
ロータリの固定のしかた

1．P.T.O軸変速レバー、主変速レバーが〝中立〟の位置にあることを確認し、エンジンを始動します。

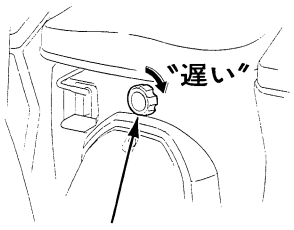
2．油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にしてロータリを上昇させ、下降速度調整ノブを〝遅い〟(右方向)に止るまで回し油圧をロックします。



(機械式ポジション
コントロール仕様)

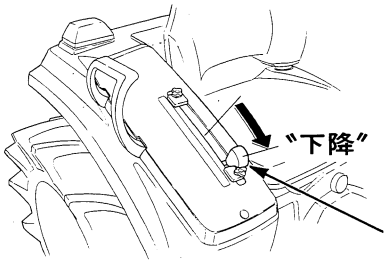


(HiS仕様)

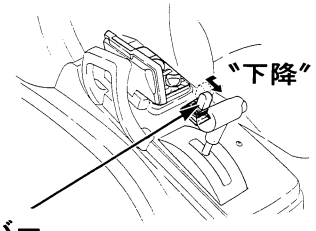


下降速度調整ノブ

3．油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にしてロータリが落下しないことを確認します。

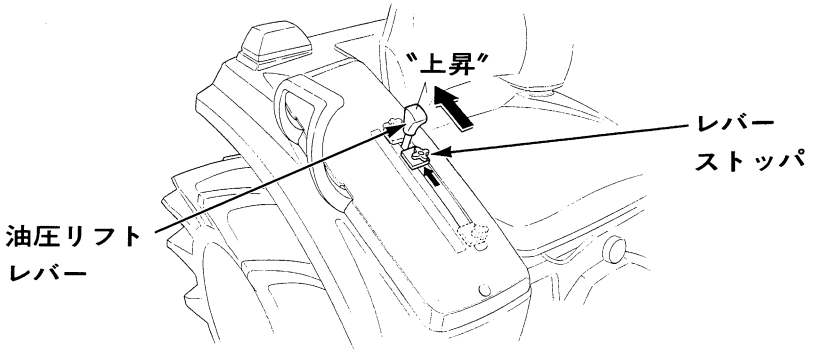


(機械式ポジションコントロール仕様)

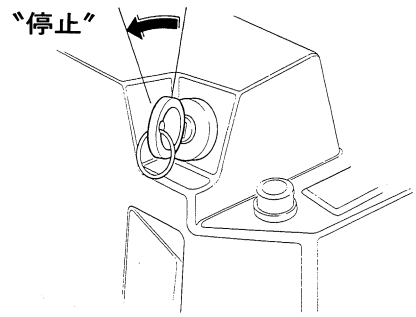


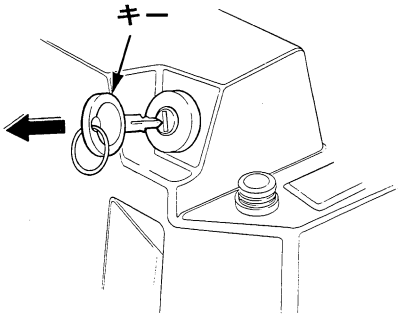
(HiS仕様)

4．再度油圧リフトレバーを〝上昇〟の位置にして油圧リフトレバーをレバーストッパでロックします。(機械式ポジションコントロール仕様のみ)



5．エンジンを停止し、キーを外してください。





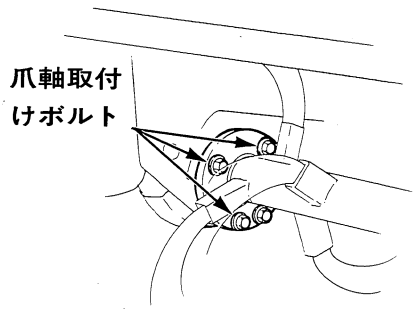
ロータリ爪、爪軸の点検

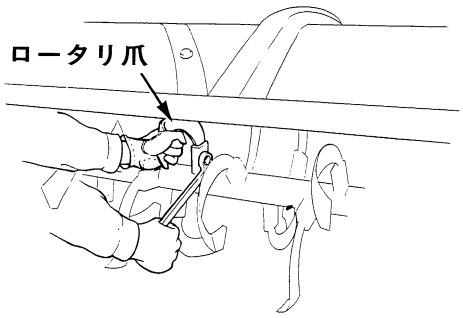
注意　ロータリ爪の点検を行う時は、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。

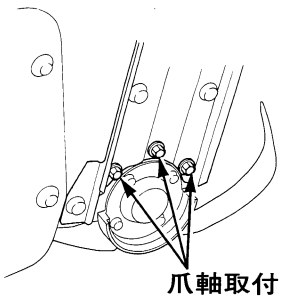
1．ロータリを固定します。(23～24頁参照)

2．ロータリ爪の損傷、曲がり、ガタがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。交換方法は32頁を参照してください。

3．ロータリ爪軸の取付けボルトにゆるみがないか点検してください。もし緩んでいる場合は取付けボルトを締付けてください。

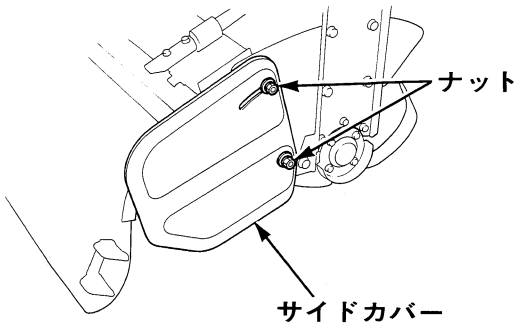






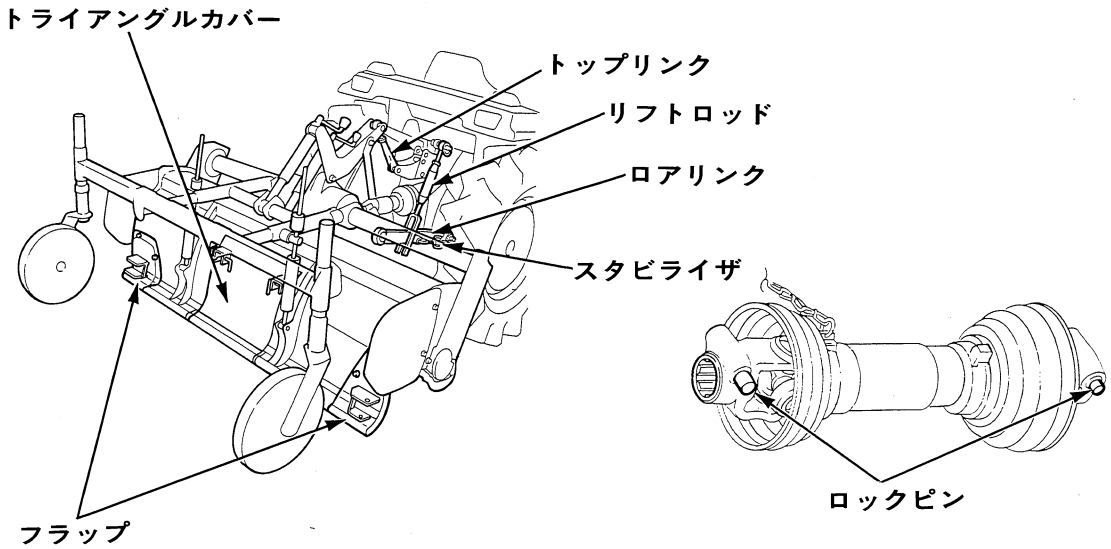
各部の締付け点検

■サイドカバー締付けナットがゆるんでいませんか。



■フラップ締付けボルトはゆるんでいませんか。

■トライアングルカバーは確実にセットされていますか。(ロックピンはロックされていますか)



■トップリンク、右側リフトロッド(機械式ポジションコントロール仕様)スタビライザのロックナットが締まっているか確認してください。

■ユニバーサルジョイントのロックピンが確実にロックされているか確認して下さい。

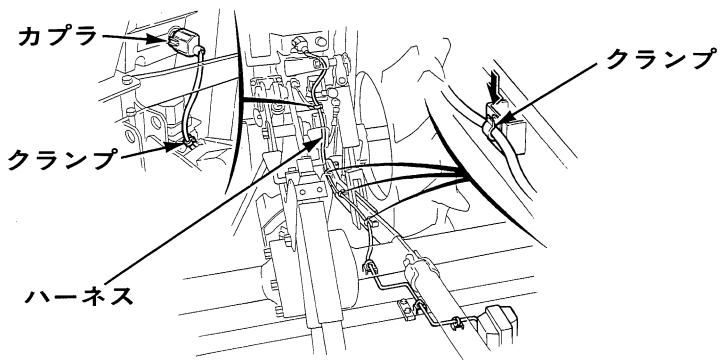
■ロアリンク、トップリンク取付け部のリンチピンのリングが確実にロックされているか確認してください。

耕深センサカプラ、ハーネスの点検(HiS仕様のみ)

カプラが外れていたり、ハーネスが損傷していると〝耕深〟や〝水平・耕深〟モードのとき耕深が安定しません。また故障の原因となります。

・カプラが正しく接続されているか確認してください。

・ハーネスがクランプ内に固定されているか確認してください。



耕　う　ん　作　業

圃場での注意

圃場での作業は、作物・耕地の形状・水田・湿田・畑などによって作業方法が異なります。圃場に応じた作業方法を工夫して、効率のよい作業を行ってください。

(1)ロータリを後部に装着すると、前輪にかかる重量が変わり、前輪が浮き上がりやすくなります。発進する時は、エンジン回転を下げてクラッチペダルから足をゆっくり離して静かに発進してください。

(2)圃場への出入りは、つぎの事項に注意してください。

- ブレーキペダルの左右の連結を、必ず確認してください。
- あぜ道と圃場への出入りは、4WD(4駆)に切換えて斜めに登り降りせず直角に行ってください。
- 圃場の出入りぐらいと簡単に考えず、事前に圃場出入り用のアユミ板、あぜ道の傾斜をゆるくするなどの準備をしておきましょう。
- 圃場への出入りは高低差が大きいと、ロータリ部があぜにつかえてロータリ部を損傷するばかりでなく危険ですのでアユミ板などを使用してください。
- 代かき作業などでタイヤがぬれているとちょっとした傾斜でもスリップすることがあります。このような場合には、すべり止めのついた板を使用してください。
- あぜ道の登り始めは、ロータリの回転を止め、下にさげ前進すると前輪の浮き上がりが少なくなります。あぜ道を登りきったらロータリをゆっくり上げてください。

(3)圃場での作業によってロータリ爪の回転速度および走行速度が異なります。作業の目的と条件に合わせて決めてください。(36～40頁参照)

(4)旋回するときは、必ず速度を下げてください。高速で急旋回すると大変危険です。もし怠ると傷害事故を引起こすことがあります。

(5)後退するときや、旋回するときは、必ずロータリを上げてから行ってください。もし怠るとロータリを破損する恐れがあります。

(6)後進で耕うんを行いますと、ロータリを破損する恐れがあります。

(7)下降速度調整ノブでロータリの下降速度を適切な速度に調整してください。(27頁参照)

(8)圃場に入って作業を行う場合は、ブレーキペダルの連結金具を外し、左右のブレーキが別々に使用できる状態にすると旋回性を高めることができます。

(9)あぜぎわで旋回する場合、リフトレバーでロータリを上げ、ハンドルを切ると共に、旋回側のブレーキペダルを踏むと、小回り旋回が行えます。(信地旋回)

(10)軟弱地では、左右の車輪の抵抗が不釣合となって、片側のタイヤが空転することがあります。このような場合は、デフロックペダルを踏むと、空転を防ぎ、けん引力が出ます。

(11)圃場での作業は4WD(4駆)をご使用ください。

各部の取扱いと調整のしかた

1.下降速度調整ノブ

シート下に下降速度調整ノブがあります。

このノブを回すことにより作業機の下降速度を調整することができます。

〝遅い〞(右回り)に回すと……下降速度が遅くなります。

〝速い〞(左回り)に回すと……下降速度が早くなります。

右に止まるまで回すと……下降しなくなります。(点検、調整時使用します)



・作業機の下降速度は、最も上がった位置から接地するまで1～2秒を目安としてください。

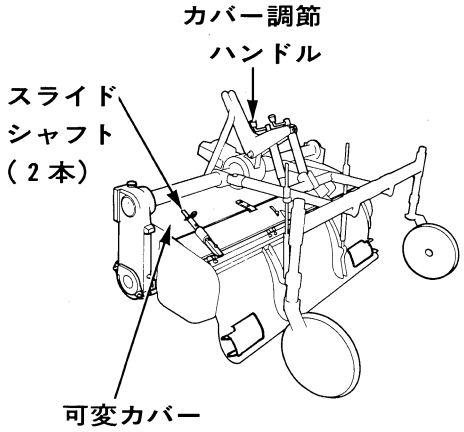
注意

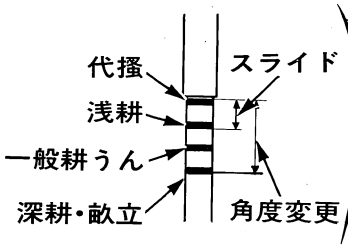
・調整、確認を行うときは、周囲の安全に十分注意してください。
・下降速度は作業機の重さ、外気温度等によってかわります。
・調整ノブは一気にゆるめないでください。一気にゆるめると作業機が思わぬ速さで下降することがあります。1/8回転ごとに確認してください。作業機を交換した時は必ず再調整してください。
・ロータリを点検調整する場合にはロータリの下降を防止するため、下降速度調整ノブを〝遅い〞(右回り)にいっぱいに回してください。又リフトレバーを〝下降〞の位置にしてロータリが落下しないか必ず確認してください。
機械式ポジションコントロール仕様の場合は、確認後、油圧リフトレバーを〝上昇〞の位置に戻して油圧リフトレバーをロックしエンジンを停止してキーを外してください。
HiS仕様の場合はエンジンを停止してキーを外して下さい。

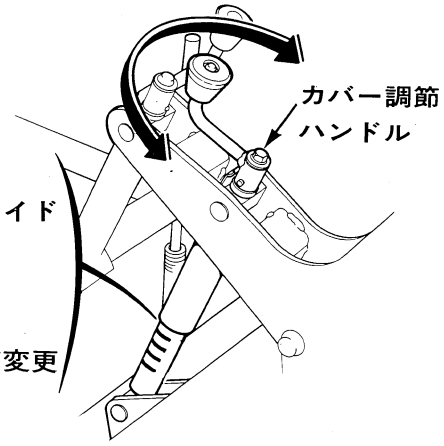
2．カバー調節ハンドル(可変カバー)

調節ハンドルを回し、作業に応じて可変カバーの角度を変える事ができます。代掻作業もハンドルを回す事により、可変カバーをスライドする事ができます。

注意
- カバーを調整する時は、ロータリを地面から浮かして行ってください。
- ハンドルを操作する時は、手が尾輪調節ハンドルに当らないよう位置をあらかじめ調節してください。
- ラベルの位置は調節の目安としてください。



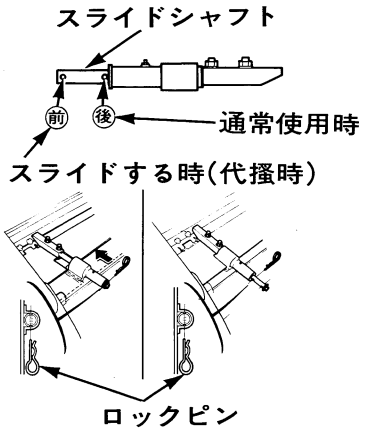




・カバーをスライドするときは(代掻作業時)

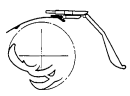
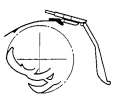
カバーをスライドする時は、必ずスライドシャフト(2本)の穴位置をロックピンで変更してください。使用後は必ず元の穴位置にしてください。

注意
- スライド途中の状態で作業すると、カバーのこじれによりスライド部損傷の可能性があるため、スライド途中では作業しないでください。



ロックピンは図の様に取付けてください。逆に取付けるとピンが変形、破損、外れてしまいます。

調節の目安 下表作業内容は、圃場の条件により異なる為、作業の目安としてください。

カバー調節ハンドル位置	深耕・畝立	一般耕うん	浅　耕	代　掻
スライドシャフトロックピン位置 前 後	後	後	後	前
カバー位置				
作業内容	乾田 荒おこし 溝切・畝立 深耕	畑地 耕起・均平 砕土・ 施肥播種	畑地 浅耕	田 代掻

3．リヤカバー

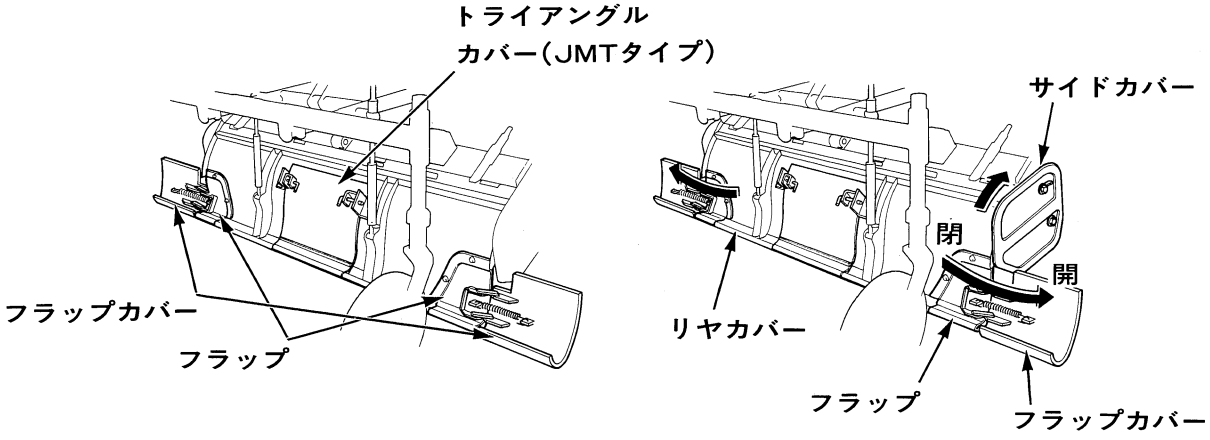
リヤカバーには、フラップカバー(左、右)とトライアングルカバー(JMTタイプのみ)があり、作業に応じて開閉、取外す事ができます。

●フラップカバー

仕上り面の均平性を良くするために広げます。

開閉を行う時にサイドカバーが当たるようでしたら当らない位置に調整します。

> 注意　尾輪をロータリ側に寄せて作業する時は、フラップカバーを外してください。

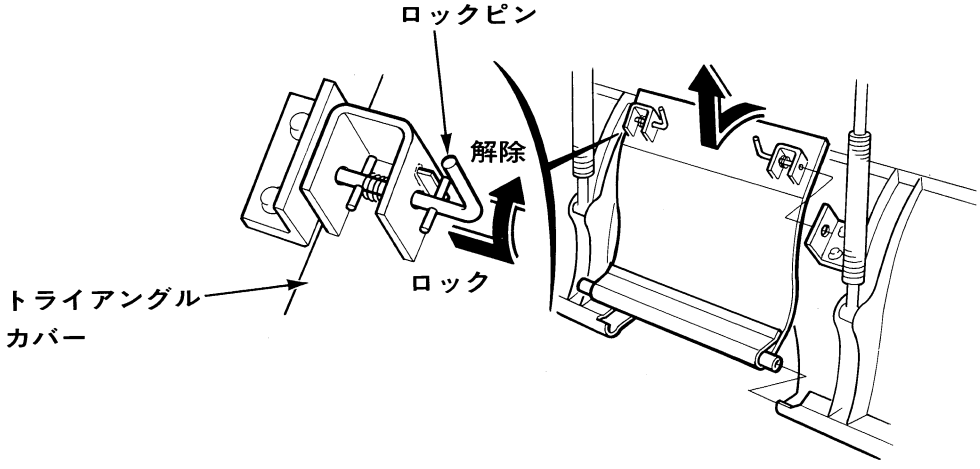


●トライアングルカバー

畝立器を使用する場合に外します。

外しかた

ロックピン(左、右)をロックが解除されるまで内側に引き出して、その位置から回します。さらに、カバーを後ろに倒して上方へ引き上げると外れます。

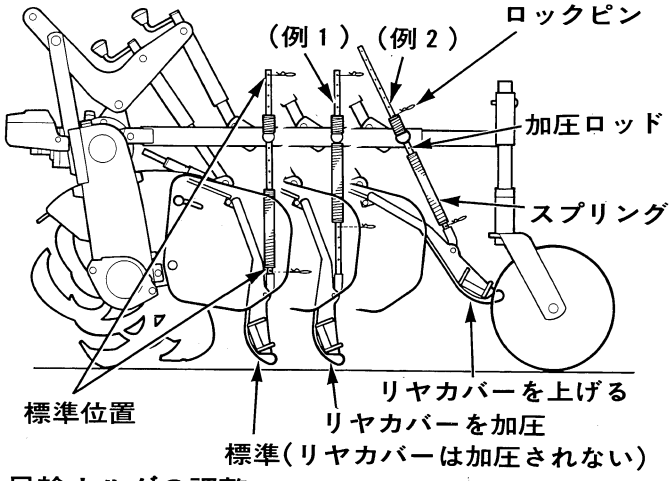


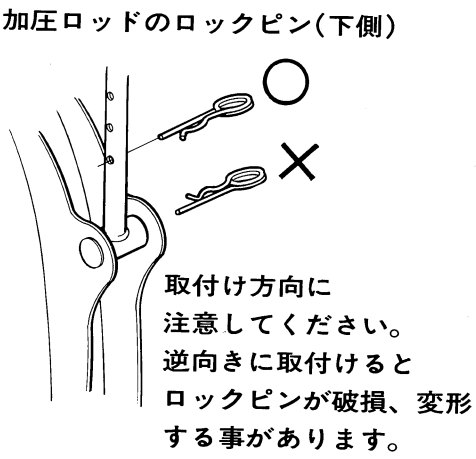
● **リヤカバーの角度調整**

リヤカバーは作業に応じて角度、加圧を変える事ができます。

調整方法

加圧ロッドの穴位置をロックピンで作業に応じて変更します。

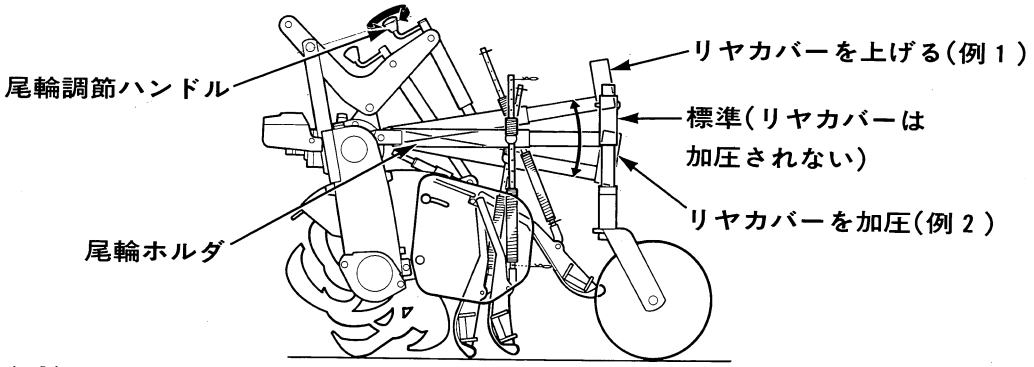




● **尾輪ホルダの調整**

尾輪ホルダの上、下位置により、リヤカバーの角度、加圧を変える事ができます。

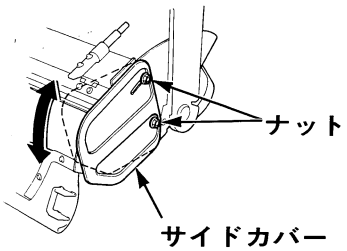
作業に応じて加圧ロッドのスプリング調整と組み合わせて適切な位置に調整します。



4．サイドカバー

作業に応じてサイドカバーの上下が出来ます。ナット２個をゆるめて希望の位置に合わせてください。(36～40頁参照)

調整後はナットを確実に締付けてください。



5．尾輪

作業に応じて前後、上下に尾輪を調整することが出来ます。

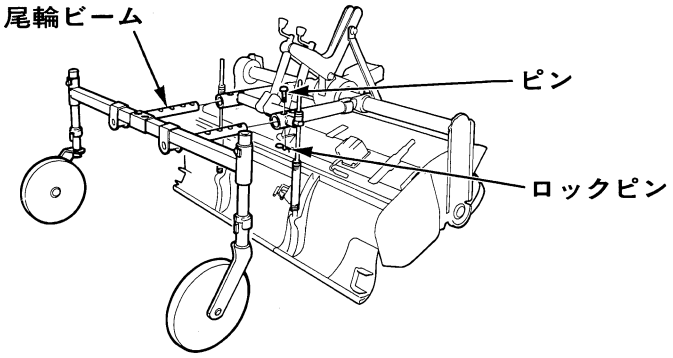
1．尾輪の前後調整

1)尾輪ホルダのロックピンとピンを外し、尾輪ビームを前後に動かします。

2)使用する穴位置に合わせて、ピンとロックピンを取付けます。

尾輪ビーム　4ヶ所

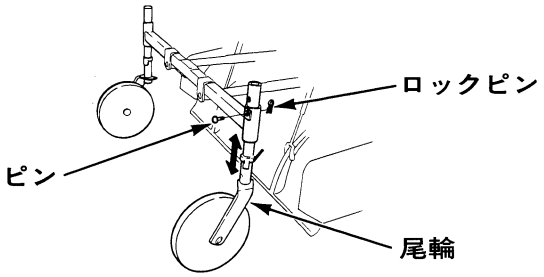
尾輪ホルダ　2ヶ所



2．尾輪の上下調整

1)尾輪ビームのロックピンとピンを外します。

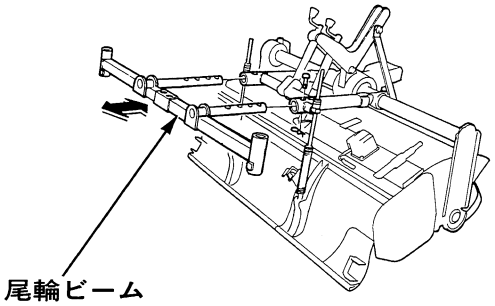
2)尾輪を上下させ、使用する穴位置(3ヶ所)に合わせて、ピンとロックピンを取付けます。



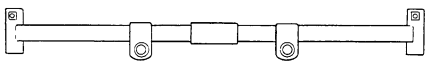
3．尾輪ビームの上下入れ換え

1)尾輪ホルダのロックピンとピンを外し、尾輪ビームを引き出して尾輪ホルダを上下逆の状態で尾輪ホルダに入れます。

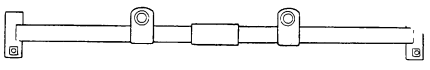
2)ピンとロックピンを取付けます。



尾輪ビームの取付け方向



又は、



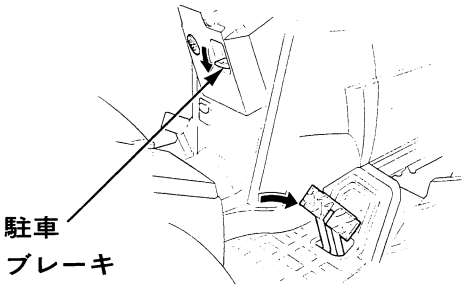
(尾輪を使用して代掻作業を行う時にこの方向にします。)

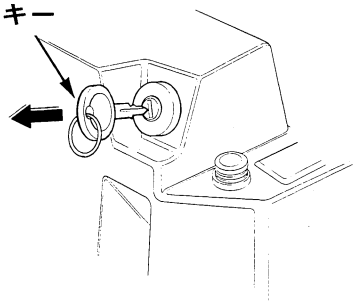
6．ロータリ爪

ロータリ爪の交換

注意

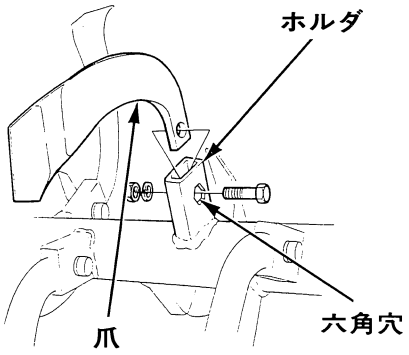
・本機を平坦な場所に止め、下降速度調整ノブを右に止まるまで回し油圧をロックしロータリを固定してください。(ロータリの固定のしかた23～24頁参照)
・エンジンを停止させ、キーを外して、駐車ブレーキをロックしてから作業を行ってください。
・ロータリ爪の交換を行うときは、必ず皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。





取外し

17mmメガネレンチでナットを外し、ボルトとワッシャを外します。爪をホルダから取外します。

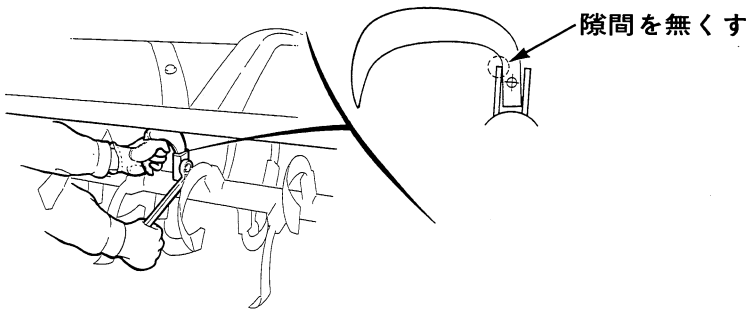


取付け

取付けはホルダの六角穴にボルトの頭を入れ、ナットを確実に締付けます。

注意

ナット締付けは、各ロータリ爪とホルダ間に隙間を無くす為、図のようにロータリ爪を手で押さえながら行ってください。

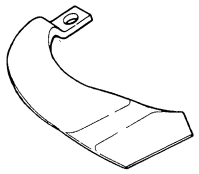


ロータリ爪の取付け方向(爪軸はロータリ後方から見たときの状態です。)

普通耕うん(平面耕うん)

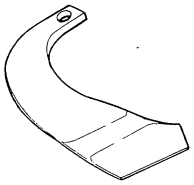
・偏芯なた爪

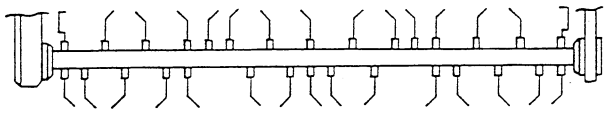
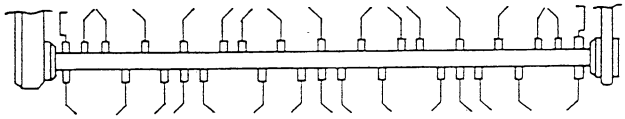
偏芯なた爪の曲がり方向が内側を向くようにロータリの左右へ各１本ずつ○印の刻印のあるホルダに取付ける。



・なた爪

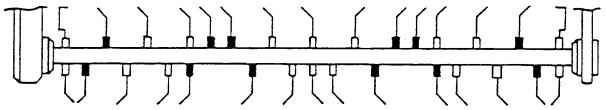
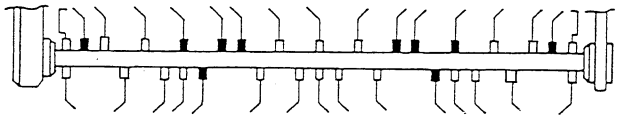
偏芯なた爪の取付けられた以外のホルダに取付けます。



R1301S	
R1401S	

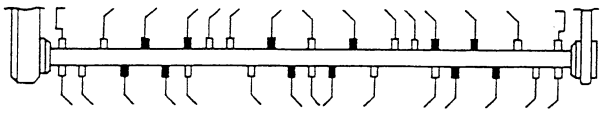
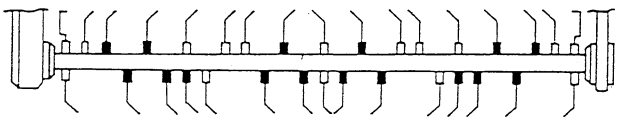
外盛耕うん

普通耕うんの時の外側から左右2本(計4本)を除き、他の爪の曲がり方向を全て外向にしてください。

R1301S	
R1401S	

内盛耕うん

全ての爪を内向きにしてください。

R1301S	
R1401S	

耕うん順序

以下に一般的な耕うん順序を示します。

①図１のような順序で片ブレーキを使い、信地旋回により隣接耕を行い、枕地(周囲)は回り耕で仕上げます。

②軟弱圃場では図２のように片ブレーキを使わずに一畦おき耕を行うと、土寄せが少なく仕上ります。

③代掻では、図２の一畦おき耕が一般的です。各圃場に合った方法で作業を行ってください。

圃場条件により複数掛けを行う場合には、２回目以降を前回の耕うん方法に直交する方向で行ってください。

図１　隣接耕の順序

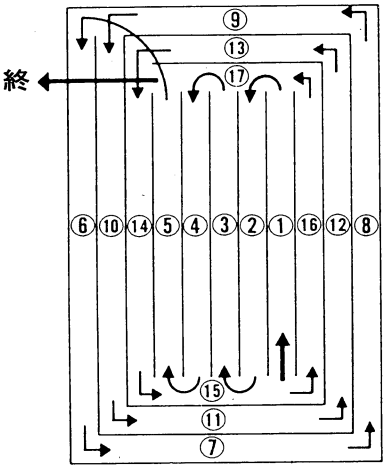
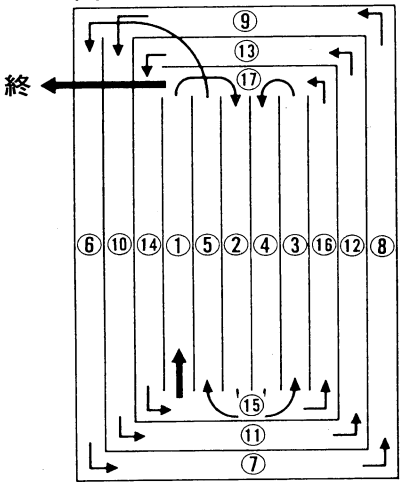
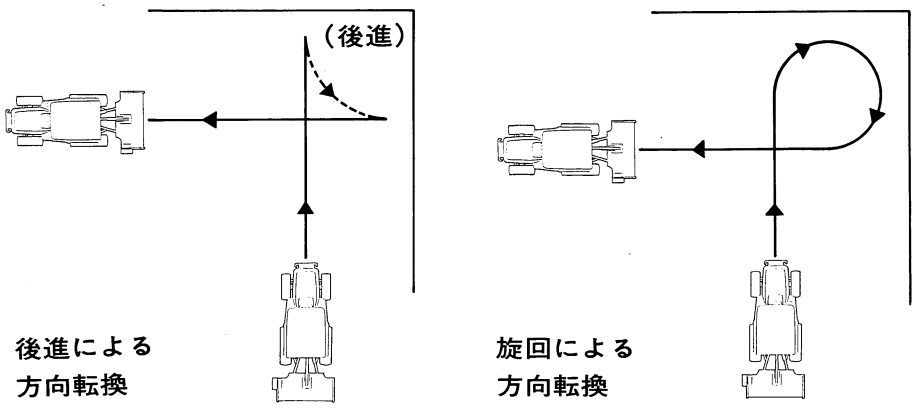


図２　一畦おき耕の順序

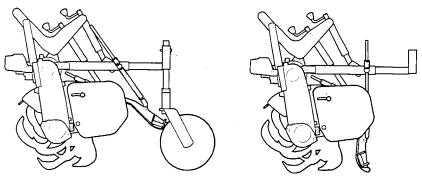
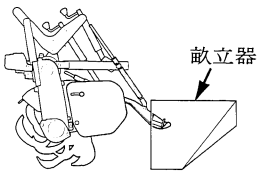
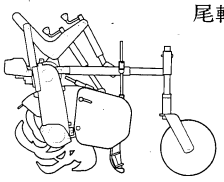
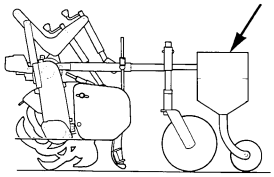


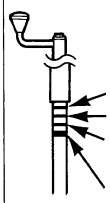
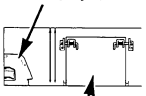
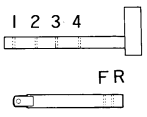
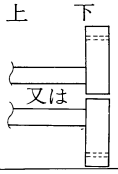
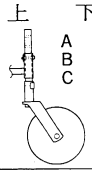
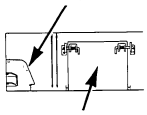
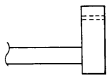
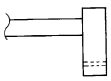
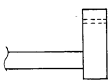
方向転換のしかた



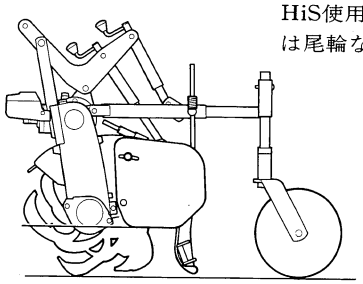
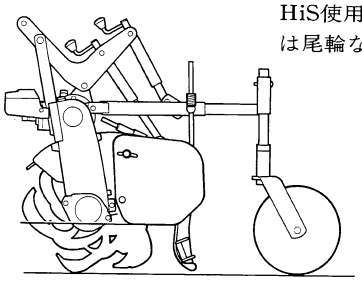
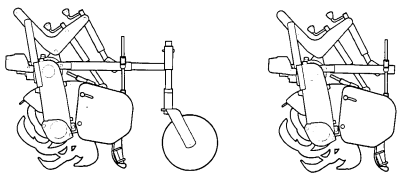
耕うん方法

耕うん方法は作物や圃場の条件によって異なります。それぞれの圃場に応じた作業方法を工夫し効率のよい作業を行ってください。以下に標準的な耕うん方法を示します。作業の目安にしてください。

作業内容	車速 (副-主)	P.T.O 変速	ロータリの状態	サイド カバーの 状態	爪配列 (爪配列のくわしい内容については33、34頁を参照してください。)
一般乾田 耕起 (荒おこし)	L-3 M-1 M-2	1	尾輪使用時　HiS使用時 	上げ	平面耕
乾田 溝切り 畝立	L-3 M-1 M-2	1 2		最上げ または取外し	平面耕 又は 外盛耕
代　掻	M-2 M-3 H-1	2	HiS使用時は 尾輪なし 	最下げ	平面耕
畑地 施肥播種	L-3 M-1 M-2	1 2		サイドカバーの下の縁が、地面と平行になる様に調節して下さい。	平面耕

カバー調節ハンドル	尾　輪　使　用　時				HiS使用時（耕深制御）
	リヤカバー 	尾　輪　位　置 尾輪ビーム　前　後 	尾輪ビーム　上　下 	尾輪パイプ　上　下 	リヤカバー 
一般耕うん	フラップ取外し	F 1、2、3 R 1、2、3	ピン穴上 	A～C	——
深耕・畝立	トライアングルカバー取外し	F 2、R 3 （畝立器反転時はR 1または干渉しない位置にしてください。）	尾輪取外す		トライアングルカバー取外し
代　掻	可変カバースライド	（R-1）	 ピン穴下	A～C	可変カバースライド
一般耕うん	——	F 3	ピン穴上 	A～C	——

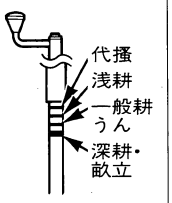
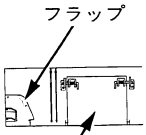
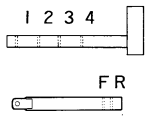
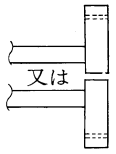
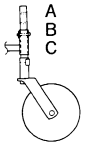
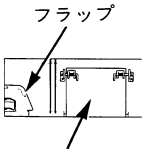
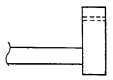
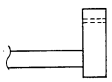
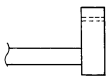
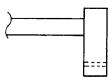
注意　畝立器反転時は、尾輪ビーム位置、尾輪ビーム角度、畝立器角度により畝立器と加圧ロッドが干渉する場合がありますので干渉しない位置に調整してください。

作業内容	車速 (副-主)	P.T.O 変速	ロータリの状態	サイド カバーの 状態	爪配列 (爪配列のくわしい内容については33、34頁を参照してください。)
畑地 耕起	L-3 M-1 M-2	1 2	HiS使用時は尾輪なし 	サイドカバーの下の縁が地面と平行になる様に調節してください。	平面耕
畑 均平、砕土	L-3 M-1 M-2	1 2 3	HiS使用時は尾輪なし 	サイドカバーの下の縁が地面と平行になる様に調節してください。	平面耕
畑地 浅耕 (耕深100mm未満)	M-1 M-2	1 2	尾輪使用時　HiS使用時 	最下げ	平面耕

作業深さ(耕深)は、尾輪調節ハンドル、又はHiS深さ設定つまみにより、圃場必要耕深とします。

耕深の目安：乾田90～140mm、

畑120～200mm

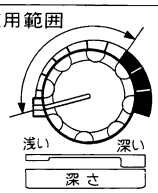
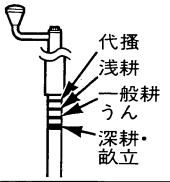
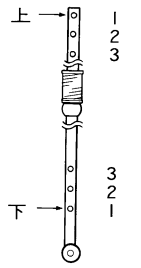
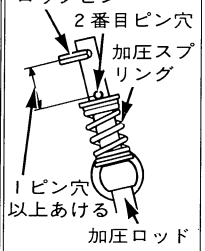
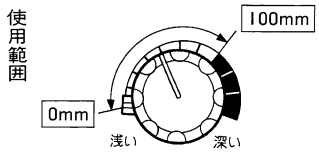
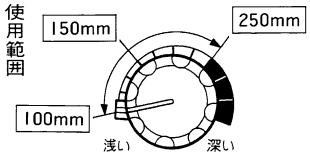
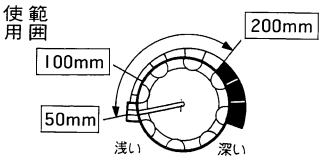
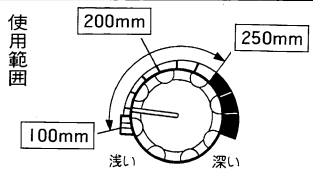
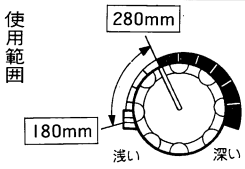
カバー調節ハンドル	尾輪使用時				HiS使用時（耕深制御）
	リヤカバー 	尾輪位置 尾輪ビーム 前 後 	尾輪ビーム 上 下 	尾輪パイプ 上 下 	リヤカバー 
一般耕うん	——	F 3 R 3	ピン穴上 	A～C	——
一般耕うん	——	F 1 R 1	ピン穴上 	A～C	——
浅耕	均平性を良くしたい場合は、可変カバースライド	R 2	 又は 	A～C	——

・HiS使用時はリヤカバーが地面に接地するようにしてください。

・HiS使用時は尾輪ビームとリヤカバーが接触しないように尾輪調節ハンドルで調整してください。

・HiS使用時は、尾輪ホルダ位置を尾輪調節ハンドルで調整して加圧ロッドのスプリングが遊んでいる(圧縮されていない)状態にしてください。

HiS(耕深制御使用時のみ)使用時の耕うん方法

<table>
<tr><td>カバー調節ハンドル位置
(主作業)</td><td>作業深さと深さつまみの設定
使用範囲
</td><td>加圧ロッドの調節</td></tr>
<tr><td></td><td>・設定はつまみの使用範囲内で行って下さい。
・つまみの深さを示す数字は、タイヤ沈下量に応じて変わりますので設定の目安として下さい。</td><td rowspan="6">・加圧ロッドロックピン位置

・尾輪調節ハンドルロックピン

尾輪調節ハンドルを回して、加圧ロッド最上端のロックピンと加圧スプリングとの隙間をピン穴が見える程度まであける。</td></tr>
<tr><td></td><td>タイヤ沈下量の少ない場合(0mm)</td><td>タイヤ沈下量の多い場合(300mm)</td></tr>
<tr><td>「代　掻」
位　置</td><td>
・耕深感度スイッチは「鈍」とする</td><td>
・耕深感度スイッチは「鈍」とする</td></tr>
<tr><td>「浅　耕」
位　置</td><td>
・耕深感度スイッチは「鈍」とする</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>「一般耕うん」
位　置</td><td></td></tr>
<tr><td>「畝立・深耕」
位　置</td><td></td></tr>
</table>

①耕深制御(HiSの操作パネル、モード切換つまみが「水平・耕深」または「耕深」)で作業を行う場合、希望の作業に合わせてまずロータリのカバー位置(カバー調節ハンドルで設定)を選択し、次に深さつまみで深さ設定を行います。作業深さの設定は耕うん中に行って下さい。
②上図のつまみの深さを示す数字は、タイヤ沈下量により変わりますので、深さ設定の目安にして下さい。なお、つまみ位置を一定にしたままロータリのカバー位置を変えると、作業深さ(耕深)が変わりますので作業深さの再設定は必ず行って下さい。
③作業深さの設定は上図で示す深さつまみの使用範囲内で行って下さい。更に作業を深く行う場合は作業深さに合わせ、カバー調節ハンドルでカバー位置を選択し直して行って下さい。
④HiSでモード切換つまみを「手動」「水平」として作業を行う場合や尾輪で作業を行う場合は上図のつまみ位置と設定が異なりますので、取扱説明書本機編の「HiSの使い方」の項を参照の上設定して下さい。

やさしい点検・整備

注意　手入れを行うときは、エンジンを止めエンジンスイッチキーを外して、駐車ブレーキをロックして、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。

・手入れや修理には必ずホンダ純正部品を使用してください。

定期点検表

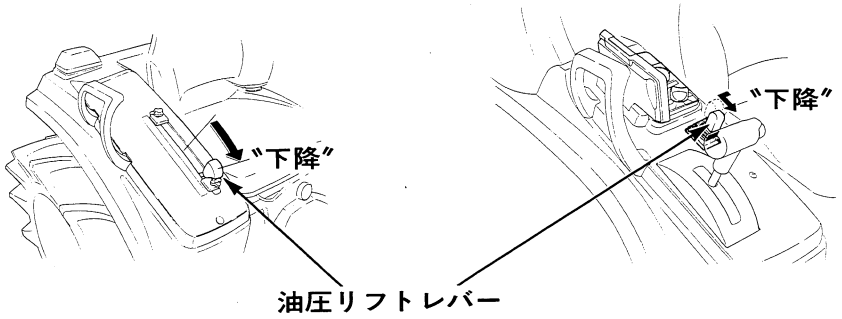
点検項目＼点検時間	作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間 運転毎	シーズン前 又は 1年1回	参照 ページ
ベベルギヤケースオイル　点検						○	44～45
交換		○			○		
チェーンケースオイル　点検						○	42～43
交換		○		○			
ロータリ爪・爪軸のゆるみ　点検	○						24
各部のゆるみ　点検	○						24～25
耕深センサカプラ、ハーネス(HiS仕様)　点検	○						25
各部の給油及びグリース塗布			○			○	46

チェーンケースオイルの点検、交換

点検

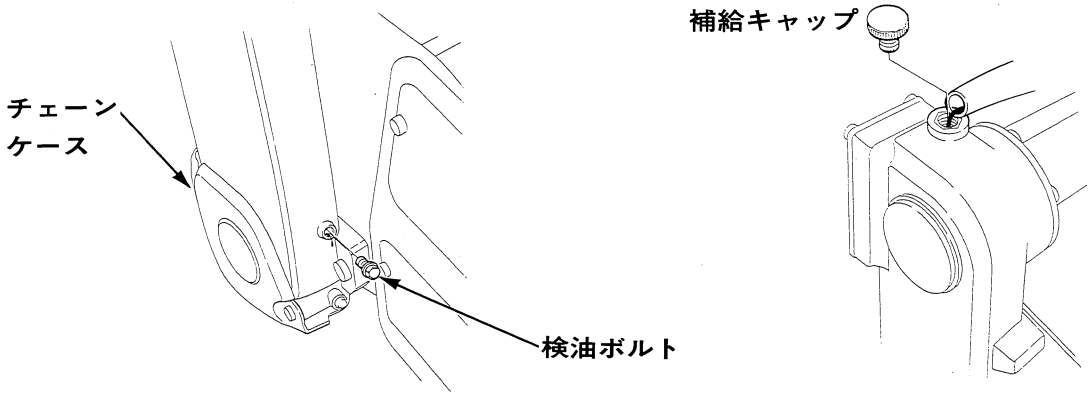
《**点検時期**》シーズン前又は、１年に１回

1．本機を平坦な場所に停止し、油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にして、ロータリを下降させます。



（機械式ポジションコントロール仕様）　　（HiS仕様）

2．エンジンを停止し、およそ５分後にチェーンケースの検油ボルトを取外しオイルがボルト穴の位置まであることを点検します。



補給

補給キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトの穴からオイルが流れるまで補給します。

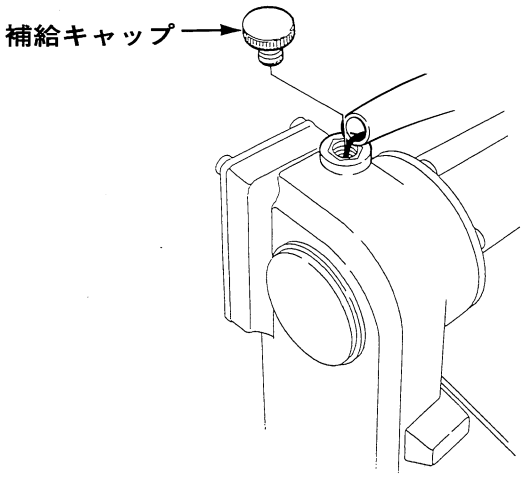
推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用（SAE30）

②ウルトラ-U〈２輪車用〉（SAE10W-30）

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- 低温時（気温10℃以下）では、ホンダ純正ウルトラ-U〈２輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時（気温－15℃以下）では、ホンダ純正汎用寒冷地オイルSE５W-30またはAPI分類SE、SF級相当のSAE５W-30のオイルをご使用ください。



交換

《交換時期》初回：20時間目、以後：100時間運転毎

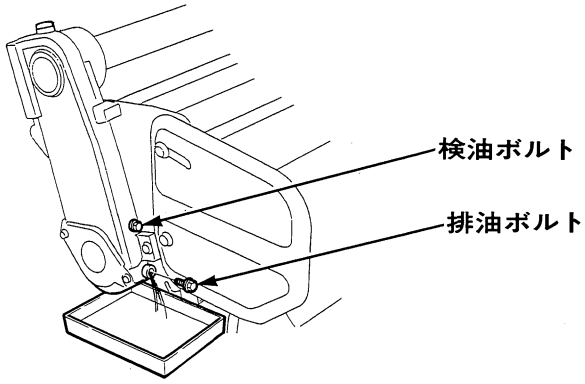
《規定量》0.8ℓ

《交換のしかた》

1.チェーンオイルを抜きやすくするため、数分間ロータリを回します。

2.平坦な場所に本機を止め、ロータリを降ろし、爪を地面に接地させます。エンジンを停止させてキーを外します。

3.排油ボルトとワッシャを外し、オイルを抜きます。



4.排油ボルトとワッシャをチェーンケースに取付け、確実に締付けます。

5.検油ボルトとワッシャを外します。

6.補給キャップを外し、検油ボルトの穴の口元から少したれるまで新しいオイルを注入します。注油は少しずつ、ゆっくり行ってください。

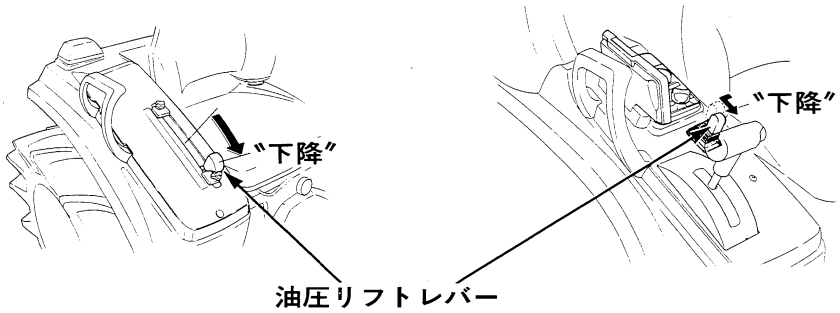
7.注入後、検油ボルトとワッシャをチェーンケースに取付け、確実に締付けます。補給キャップをチェーンケースに取付けます。

ベベルギヤケースオイルの点検、交換

点検

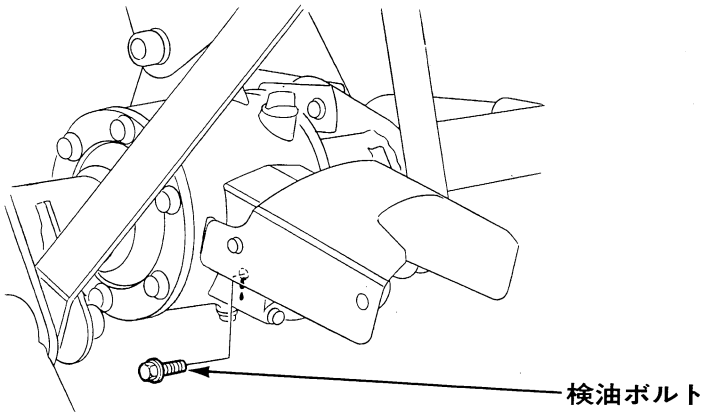
《**点検時期**》シーズン前又は、１年に１回

1.本機を平坦な場所に停止し、油圧リフトレバーを〝下降〟の位置にして、ロータリを下降させます。



（機械式ポジションコントロール仕様）　　（HiS仕様）

2.エンジンを停止し、およそ５分後にベベルギヤケースの検油ボルトを取外しオイルがボルト穴の位置まであることを点検します。



補給

給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルトの穴からオイルが流れるまで補給します。

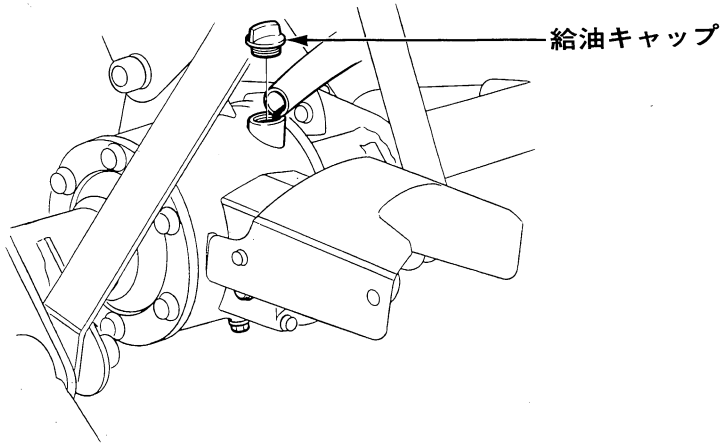
推奨オイル：ホンダ純正①ウルトラネオ汎用機用（SAE30）

②ウルトラ-U〈2輪車用〉（SAE10W-30）

またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

注意

- 低温時（気温10℃以下）では、ホンダ純正ウルトラ-U〈2輪車用〉SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時（気温－15℃以下）では、ホンダ純正汎用寒冷地オイルSE 5 W-30またはAPI分類SE、SF級相当のSAE 5 W-30のオイルをご使用ください。



交換

《交換時期》初回：20時間目、以後：300時間運転毎

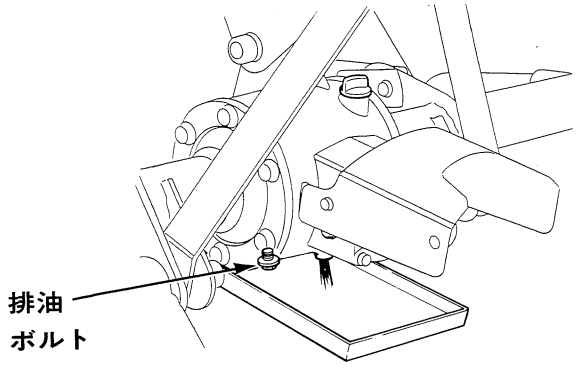
《規定量》0.5ℓ

《交換のしかた》

1.ベベルギヤオイルを抜きやすくするため、数分間ロータリを回します。

2.平坦な場所に本機を止め、ロータリを降ろし、爪を地面に接地させます。エンジンを停止させてキーを外します。

3.排油ボルトとワッシャを外し、オイルを抜きます。



4.排油ボルトとワッシャをベベルギヤケースに取付け、確実に締付けます。

5.検油ボルトとワッシャを外します。

6.給油キャップを外し、検油ボルトの穴の口元から少したれるまで新しいオイルを注入します。注油は少しずつ、ゆっくり行ってください。

7.注入後、検油ボルトとワッシャをベベルギヤケースに取付け、確実に締付けます。給油キャップをベベルギヤケースに取付けます。

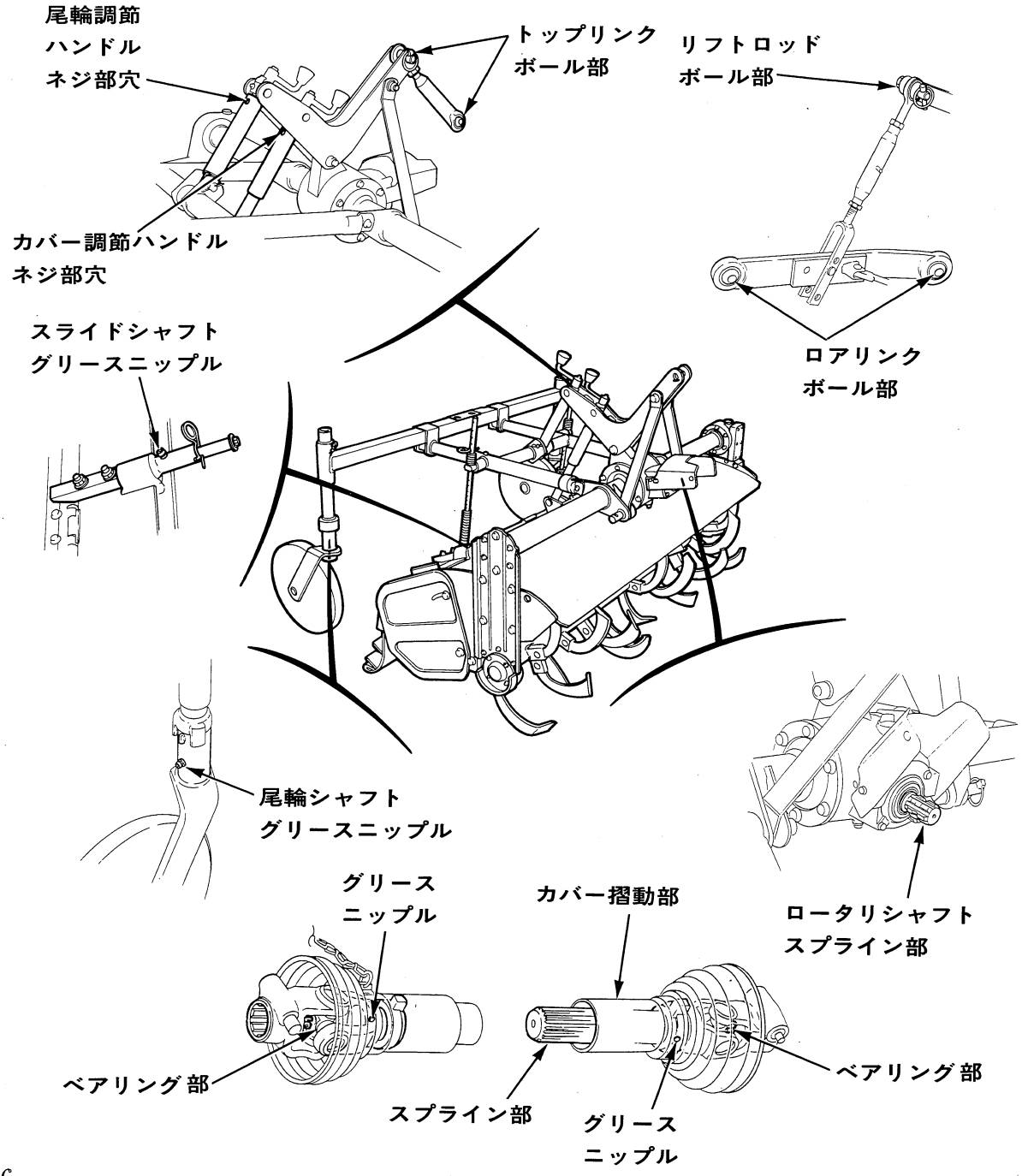
各部の給油およびグリース塗布

《給油時期》50時間運転毎、シーズン前または１年に１回

指示箇所にグリースを塗布してください。

使用グリース：マルチパーパスグリース

・ロータリを洗浄した後は、給油箇所を点検し、必要な場合は給油してください。

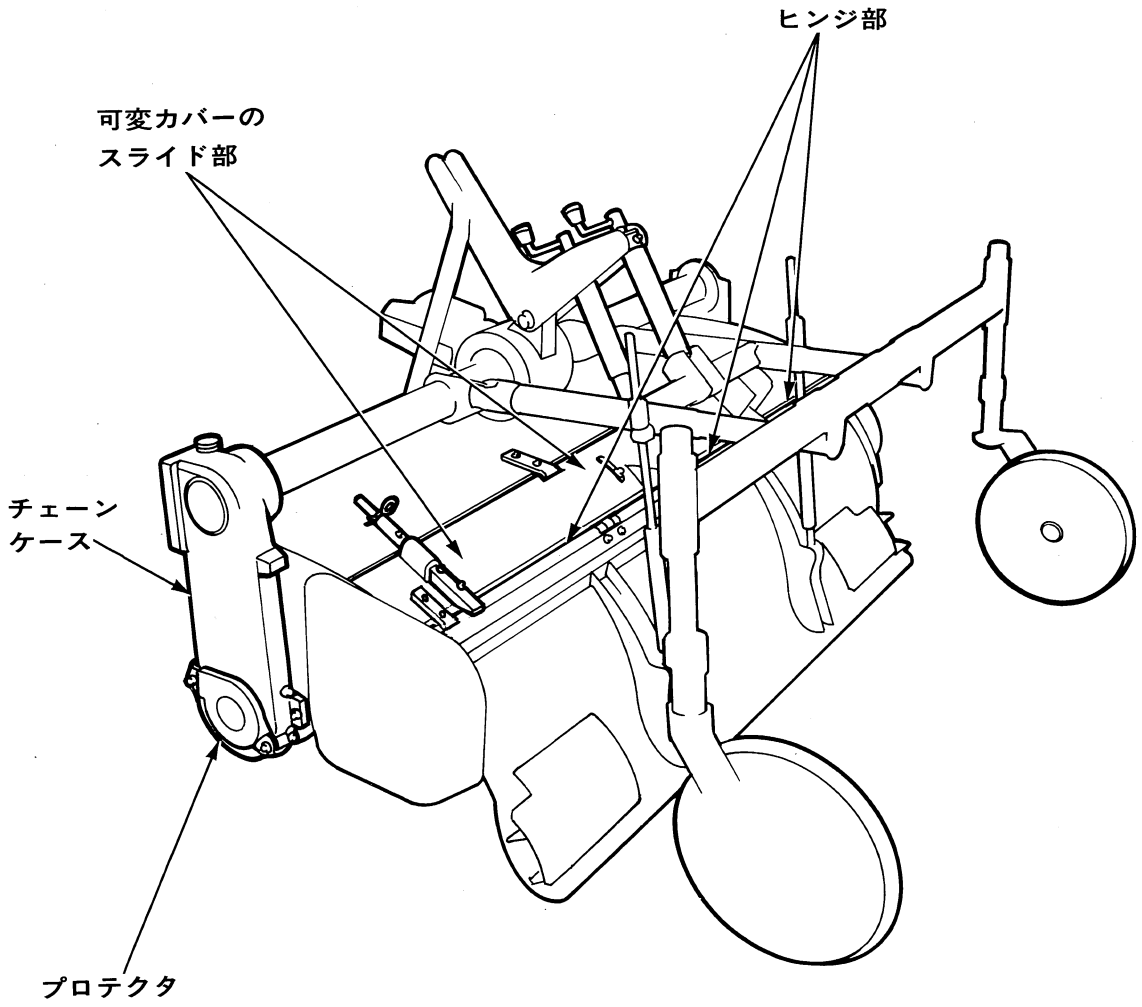


各部の清掃

使用後、ロータリに付いた土や泥を洗い落してください。

特にチェーンケースとプロテクタとの間、リヤカバーヒンジ部、可変カバーのスライド部は土がたまりやすいので十分清掃してください。

長期間保管する場合は、清掃後水分をよくふきとり乾燥させてから保管してください。



故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがロータリを長持ちさせる秘けつです。

1．ロータリが上げ下げできないときは

・下降速度調整ノブは開いてますか。 ——→ 下降速度調整ノブを開き速度を調整してください。（27頁参照）

・油圧リフト レバーを正しく操作していますか。

●機械式ポジションコントロール仕様
油圧リフトレバーのストッパの位置は適切ですか。 ——→ ストッパ位置を適切な位置にして油圧リフトレバーを操作してください。

●HiS仕様

・モード切換つまみが〝非常〟の位置になっていませんか。 ——→ 〝非常〟の位置以外のモードにしてください。

・モード切換つまみが〝耕深〟又は〝水平・耕深〟の位置になっていてリヤカバーが固定状態になっていませんか。 ——→ ・加圧ロッドのロックピンを適切な穴にセットしなおして、リヤカバーが自由に動くようにしてください。
・加圧ロッド上側のアジャスティングスプリング上部ワッシャとロックピンのスキ間が必ず開くように尾輪調節ハンドルで調整してください。

・ミッションオイルは入っていますか。 ——→ オイルを規定量入れてください。

2．爪軸が回転しないときは

・ユニバーサルジョイントは正しく装着されていますか。 ——→ 正しく装着してください。（13～14頁参照）

・P.T.O変速レバーが１～３速に入っていますか。 ——→ レバーが〝中立〟の位置だと爪軸は回転しません。
確実に１～３速に入れてください。

3．可変カバーが調整できない ——→ 尾輪ホルダを適切な位置にして、干渉しないようにしてください。

4．尾輪ビームが上げられない ——→ カバー調節ハンドルを適切な位置にして、干渉しないようにしてください。

5．作業中リヤカバーが前後に動く ——→ スライドシャフトのロックピンが外れていないか確認し、外れている場合は取付けてください。

6．可変カバーがスライドしない ——→ スライドシャフトのロックピンを外してください。

主　要　諸　元

名　　称	R1301S-JM	R1301S-JMT	R1401S-JM	R1401S-JMT
形　　式	RZBZ	RZCA	RZCB	RZCC
装着方式	特殊3点リンク			
駆動方式	サイドドライブ			
耕　幅(mm)	1,300		1,400	
全長(mm)	1,160(メカ) 876(HiS)		1,160(メカ) 876(HiS)	
全高(mm)	990		990	
全幅(mm)	1,453		1,553	
重量〔整備〕(kg) 尾輪キット無	196	198	204	206
重量〔整備〕(kg) 尾輪キット有	212	214	220	222
耕うん爪の種類	759L(R)　各14本 759PL(PR)　各1本		759L(R)　各15本 759PL(PR)　各1本	
爪半径(mm)	245			
爪軸回転方向	正転			
爪軸回転速度(rpm) P.T.O1速 P.T.O2速 P.T.O3速	 189(P.T.O554rpm) 250(P.T.O735rpm) 415(P.T.O1,219rpm)			

・全長、全高はP.I.C軸を水平にした状態での寸法です。

諸元は改良のため予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買上げいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30759720
00X30-759-7200

Ⓝ5009104